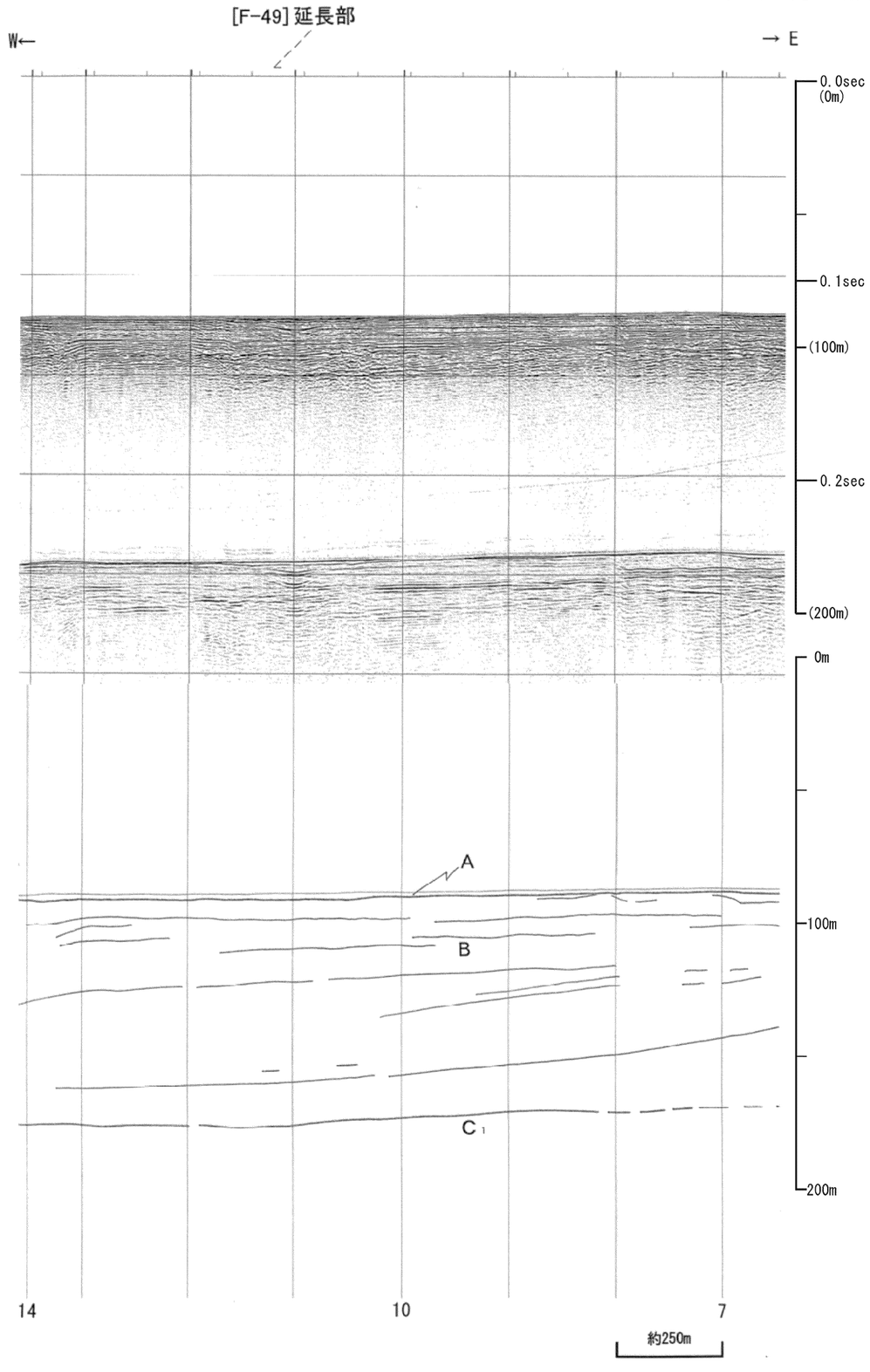
No. 22-2G
関西電力2006
ブーマー・ショートマルチ



凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 基部の延長位置 断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

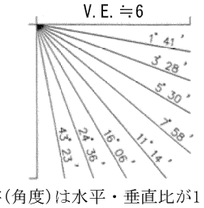
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界

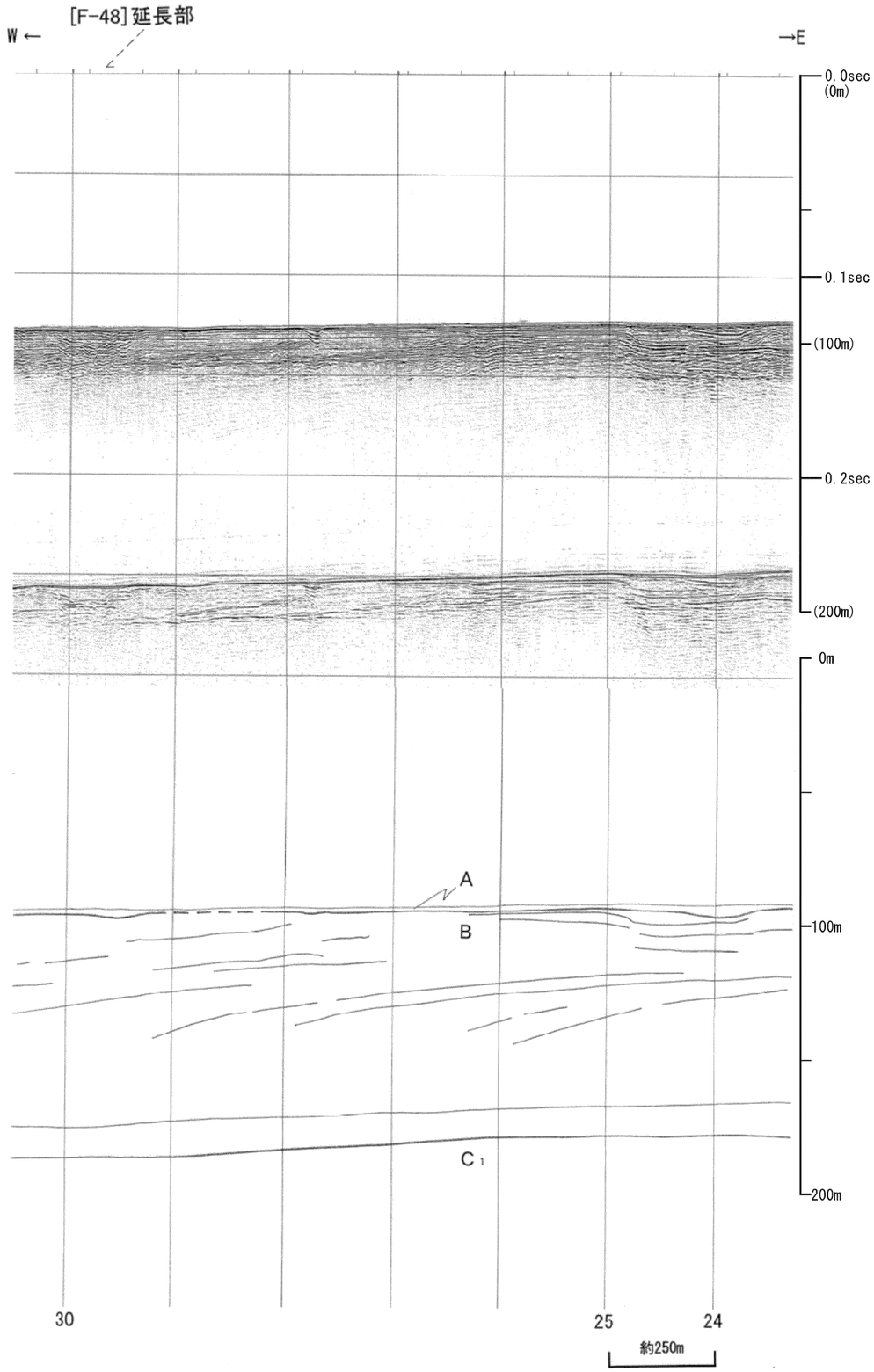


数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.2.13図(1)　C断層の海上音波探査記録及び地質断面図（No.22-2G）

No. 22-3G
関西電力2006
ブーマー・ショートマルチ



凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 断層又は撓曲の延長位置
基部の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

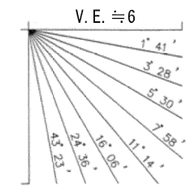
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界



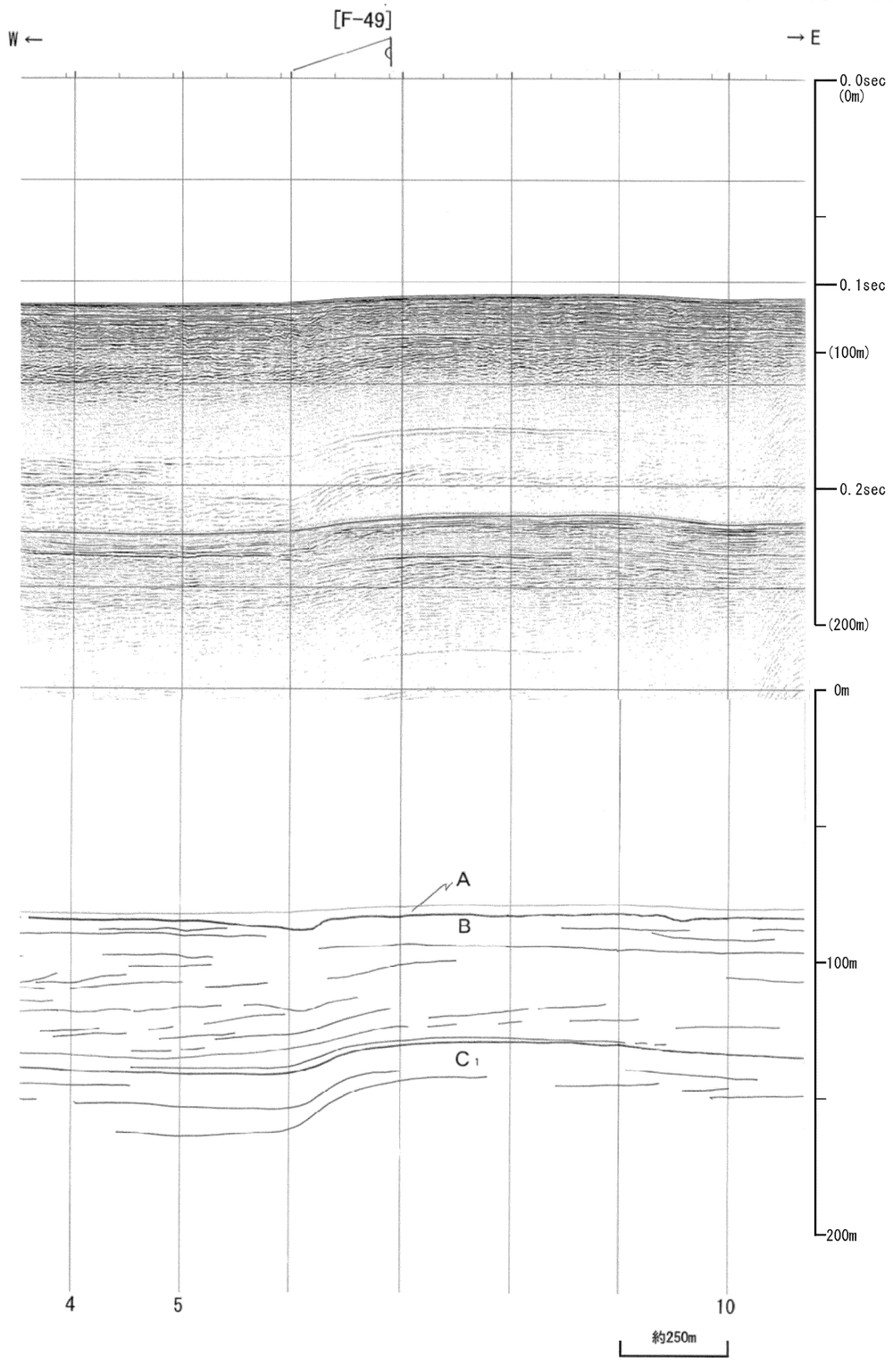
数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.2.13図(2)　C断層の海上音波探査記録及び地質断面図（No.22-3G）

No.28-1G

関西電力2006
ブーマー・ショートマルチ



凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 基部の延長位置 断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

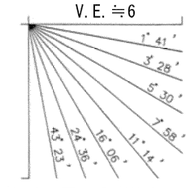
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界

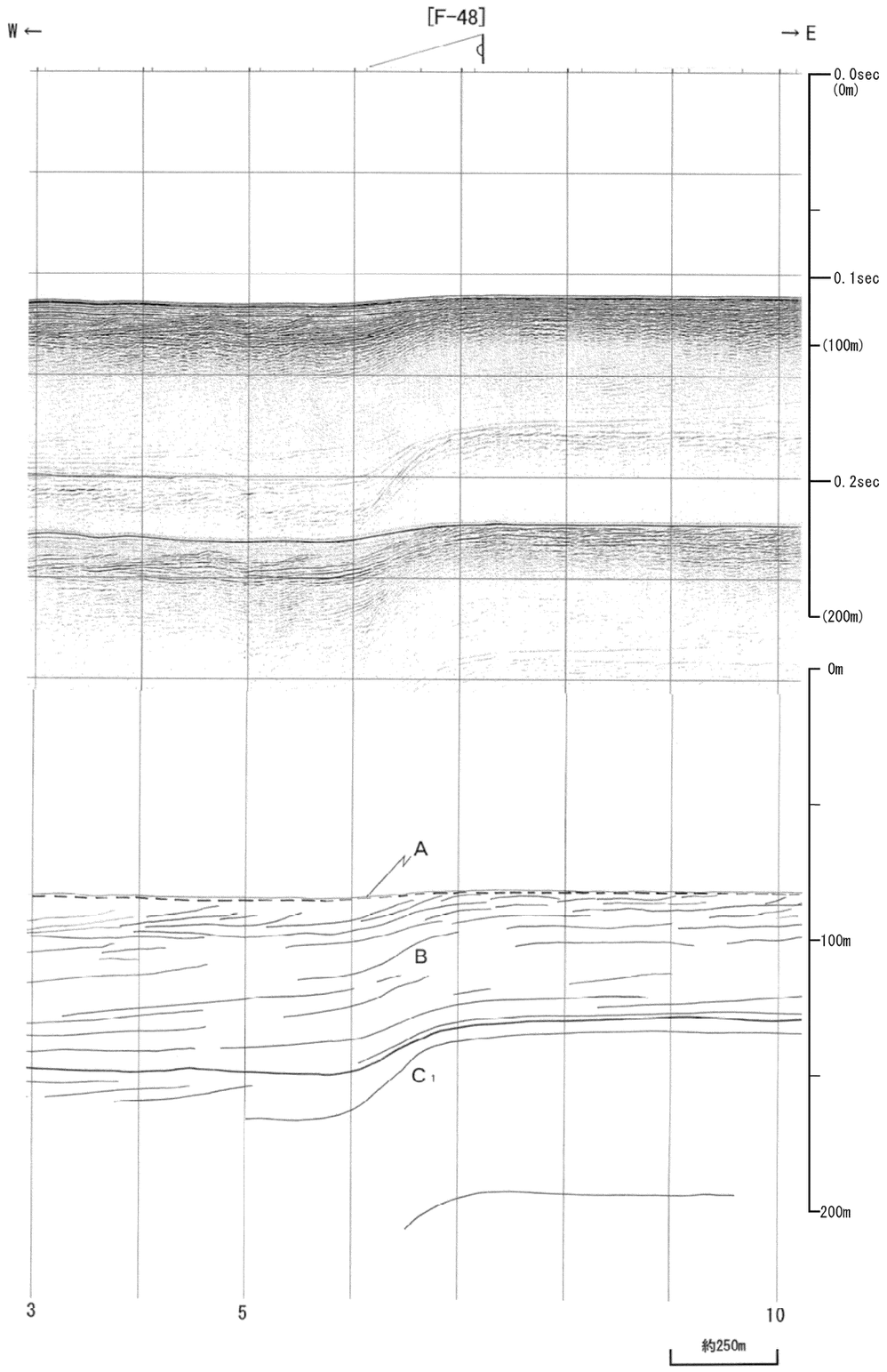


数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.2.13図(3)　C断層の海上音波探査記録及び地質断面図（No.28-1G）

No. 28-3G
関西電力2006
ブーマー・ショートマルチ



凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 基部の延長位置 断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

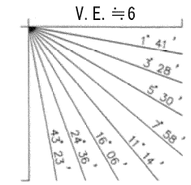
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界



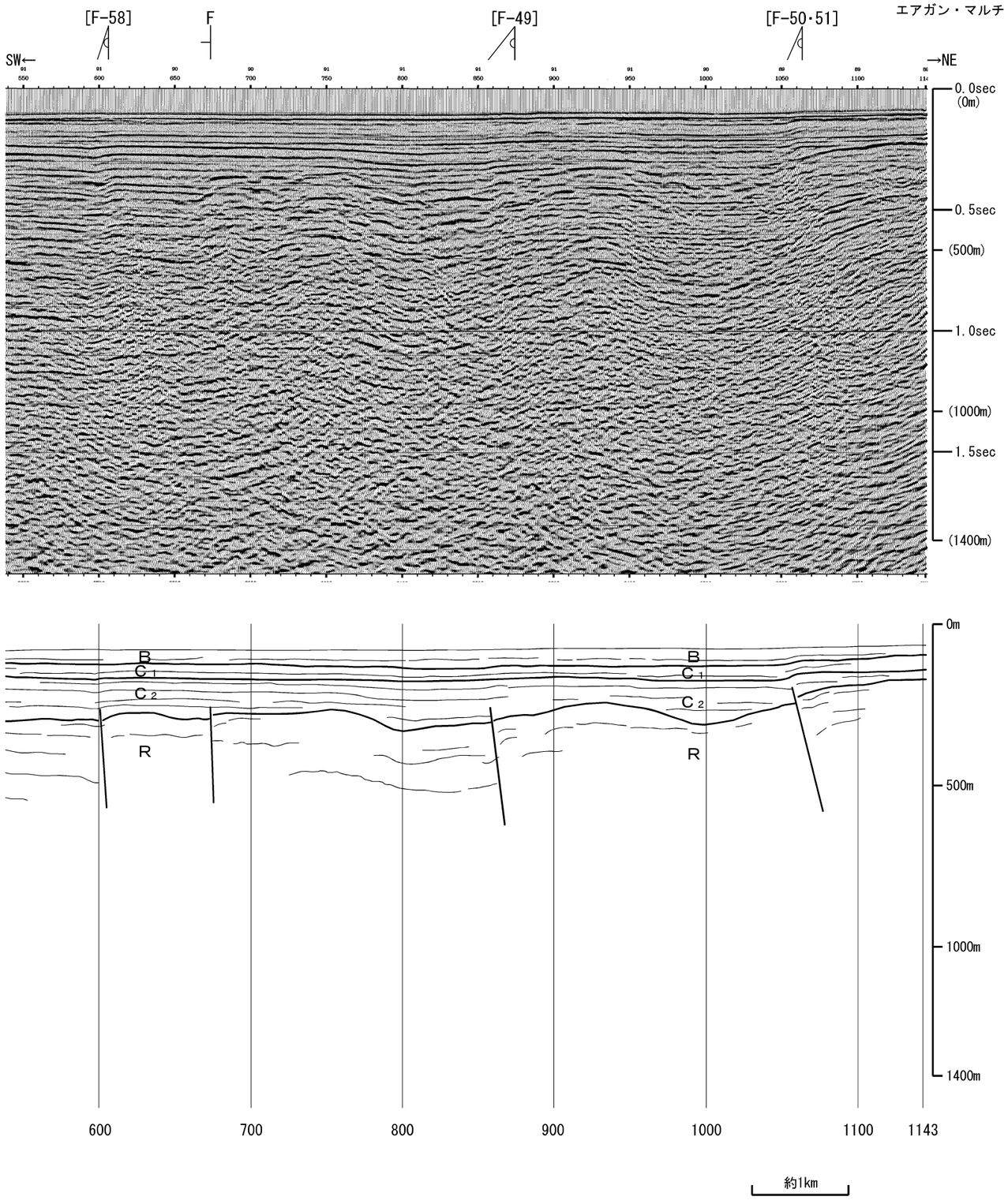
数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.2.13図(4)　C断層の海上音波探査記録及び地質断面図（No.28-3G）

AM2-2

日本原電1998
エアガン・マルチ



凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部／頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 ／ 基部の延長位置 断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

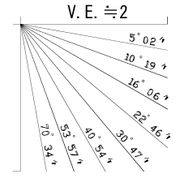
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界

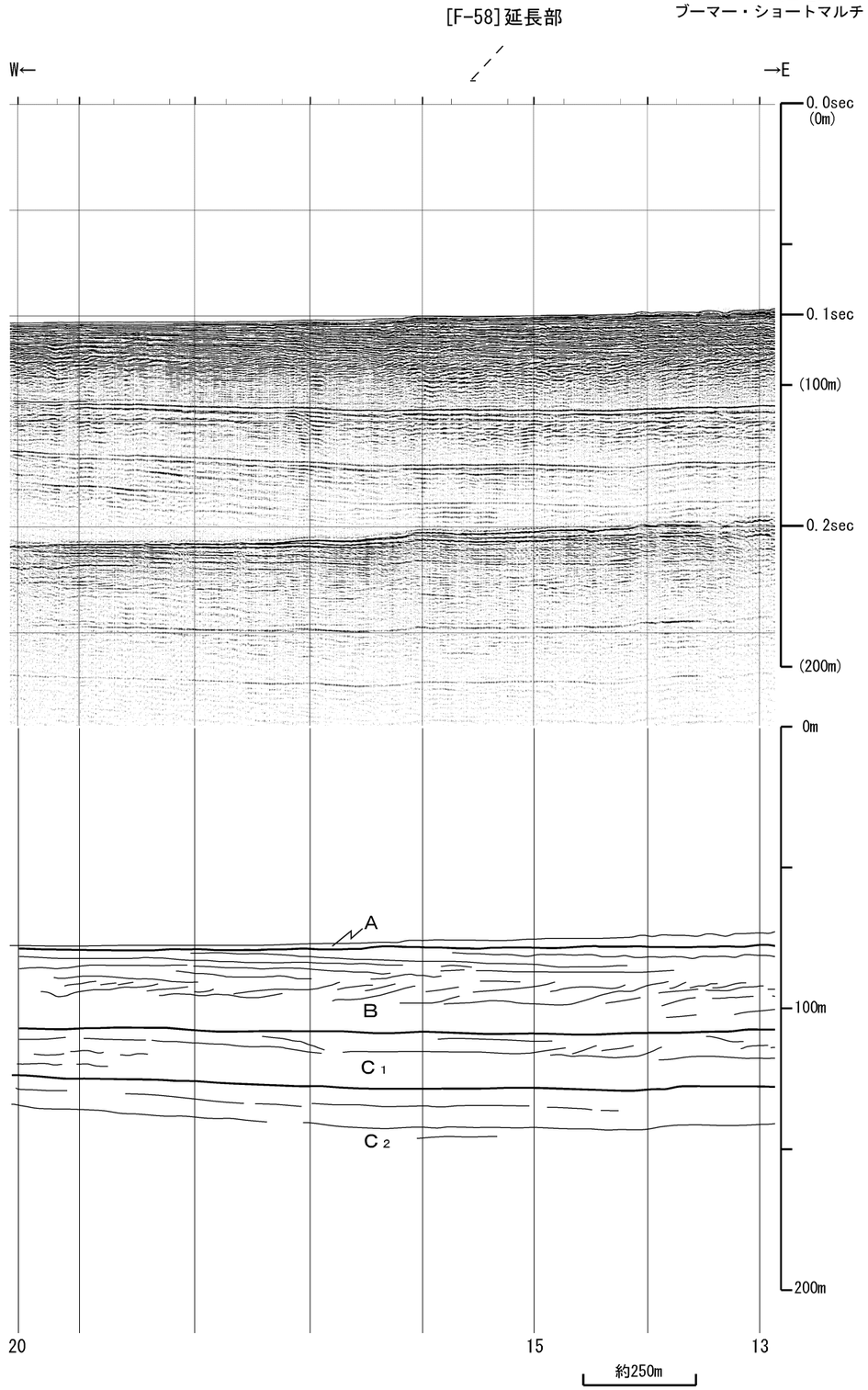


数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.2.13図(5)　C断層の海上音波探査記録及び地質断面図（AM2-2）

No. 34G
関西電力2006
ブーマー・ショートマルチ



凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 断層又は撓曲の延長位置
基部の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

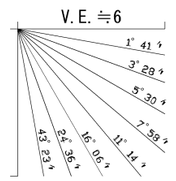
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界



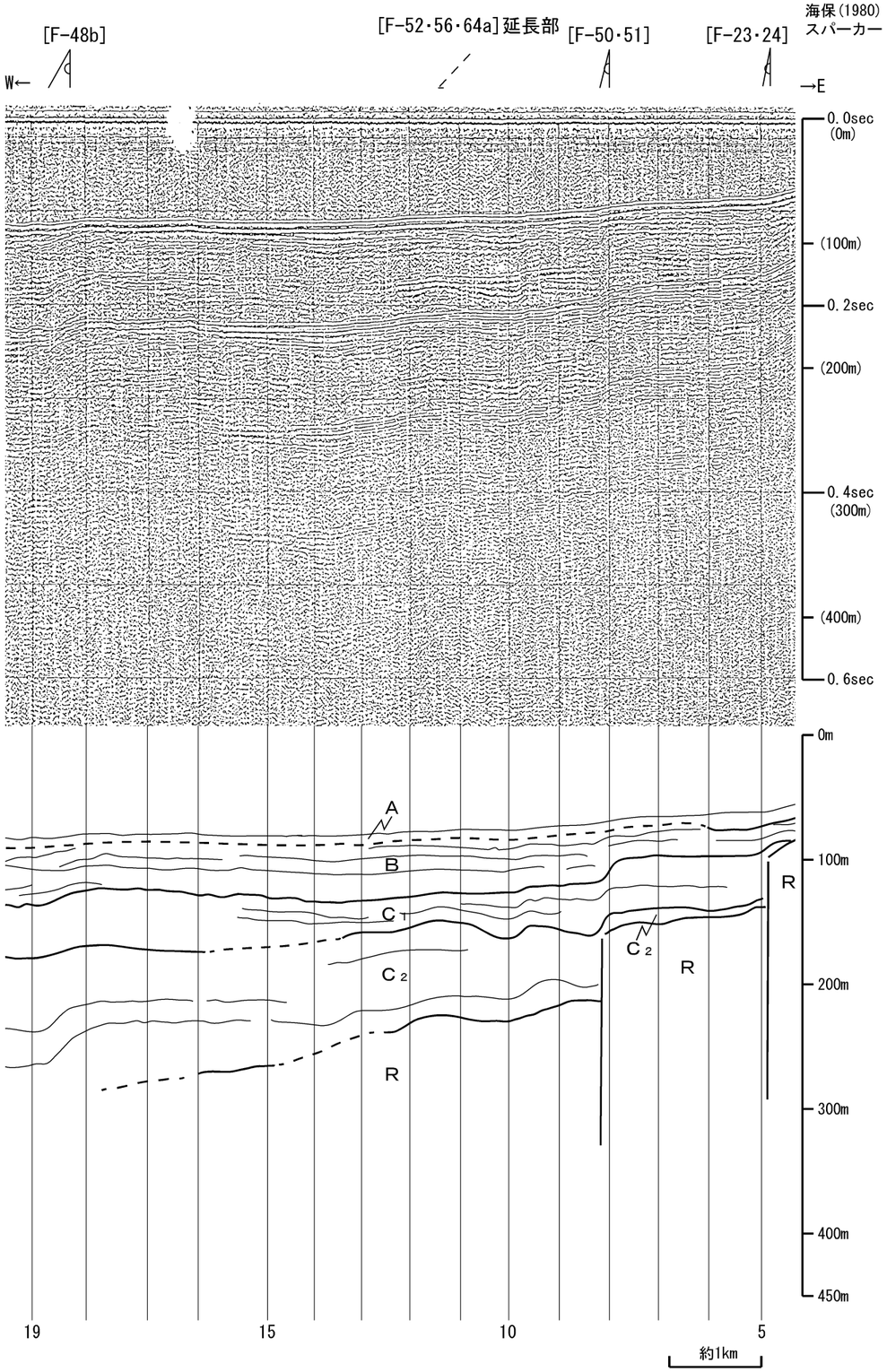
数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.2.13図(6)　C断層の海上音波探査記録及び地質断面図（No.34G）

No. 30-2

海保(1980)
スパーカー



音波探査記録は，海上保安庁水路部（現海上保安庁海洋情報部）の沿岸の海の基本図「若狭湾東部」の原資料である。
地質断面図は，申請者の解釈によるものである。

凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

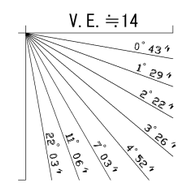
基部 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 基部の延長位置 断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統
B　B層　上部更新統
C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統
D　D層　下部～上部鮮新統
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層
推定断層
地層境界
推定地層境界



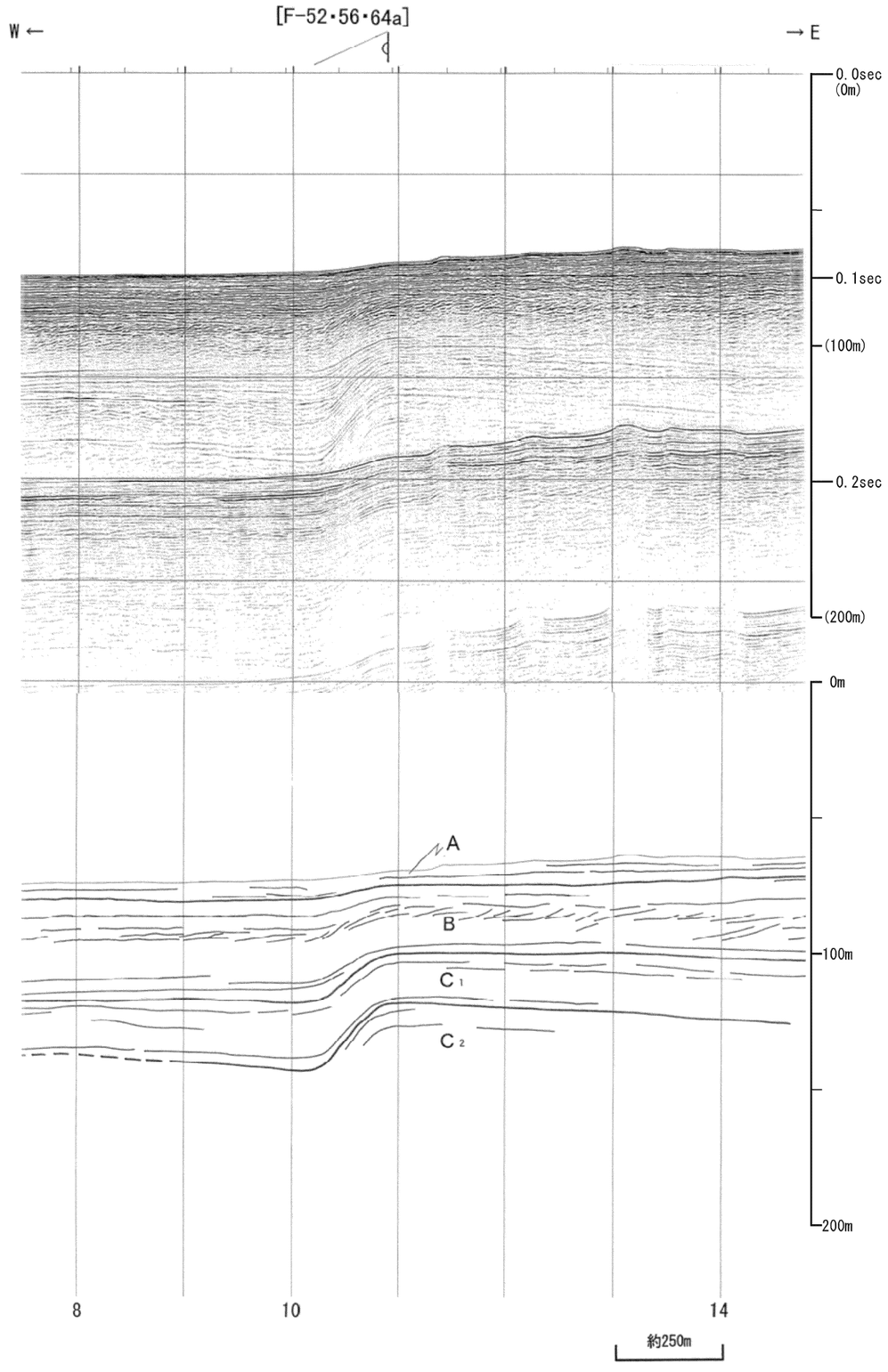
数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.2.13図(7)　C断層の海上音波探査記録及び地質断面図（No.30-2）

No.32-1G

関西電力2006
ブーマー・ショートマルチ



凡　例

[F-21]　断層及び断層番号

[F-2]　撓曲及び撓曲番号

基部　頂部　変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部
基部の延長位置　断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

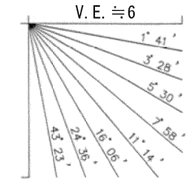
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

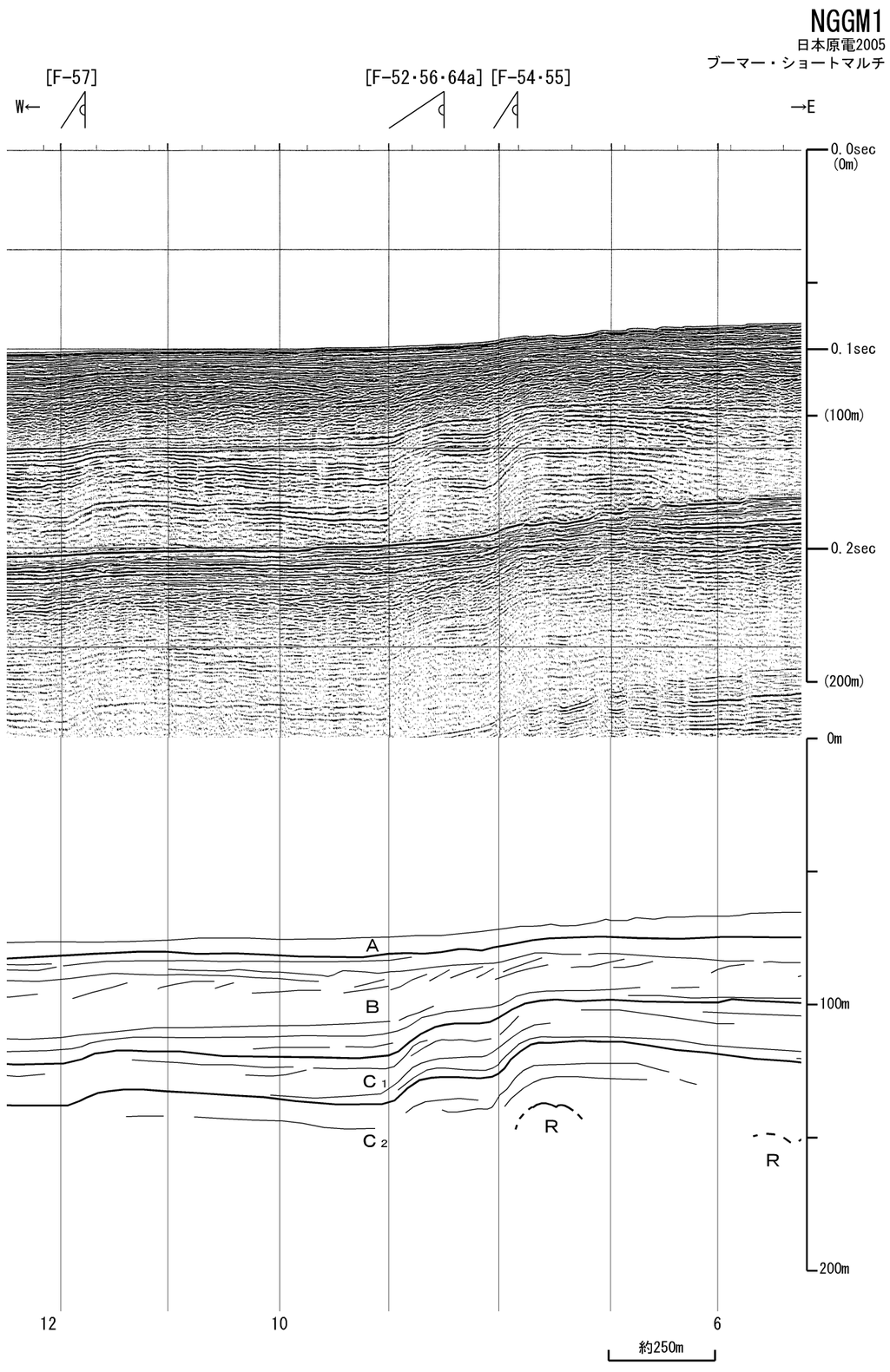
推定地層境界



数字（角度）は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.2.13図(8)　C断層の海上音波探査記録及び地質断面図（No.32-1G）



凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 基部の延長位置 断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

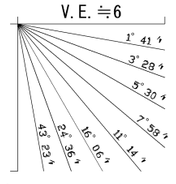
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界



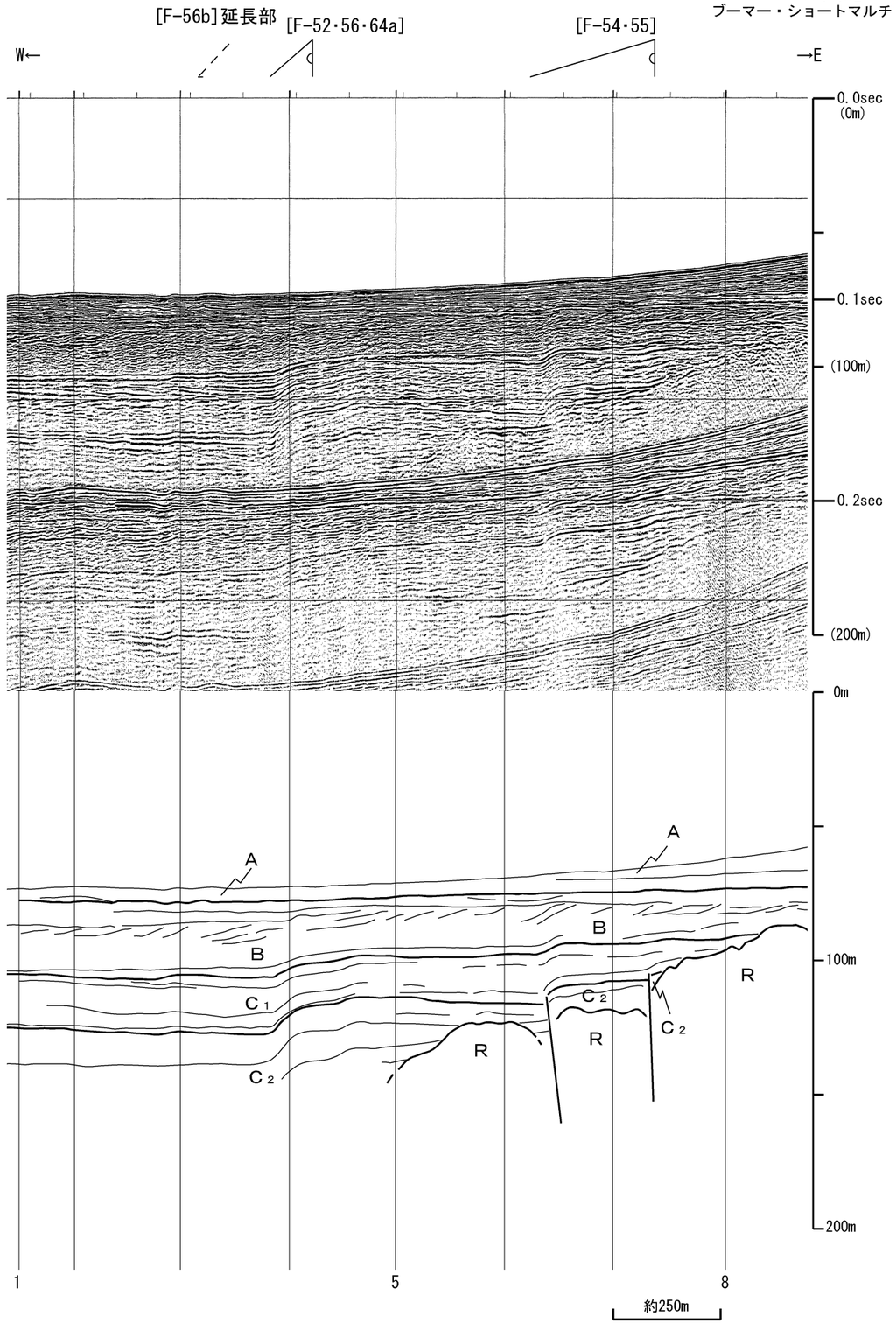
数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.2.13図(9)　C断層の海上音波探査記録及び地質断面図（NGGM1）

NGGM3-1

日本原電2005
ブーマー・ショートマルチ



凡　例

[F-21]　断層及び断層番号

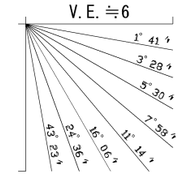
[F-2]　撓曲及び撓曲番号

基部　頂部　変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部　断層又は撓曲の延長位置
基部の延長位置

凡　例

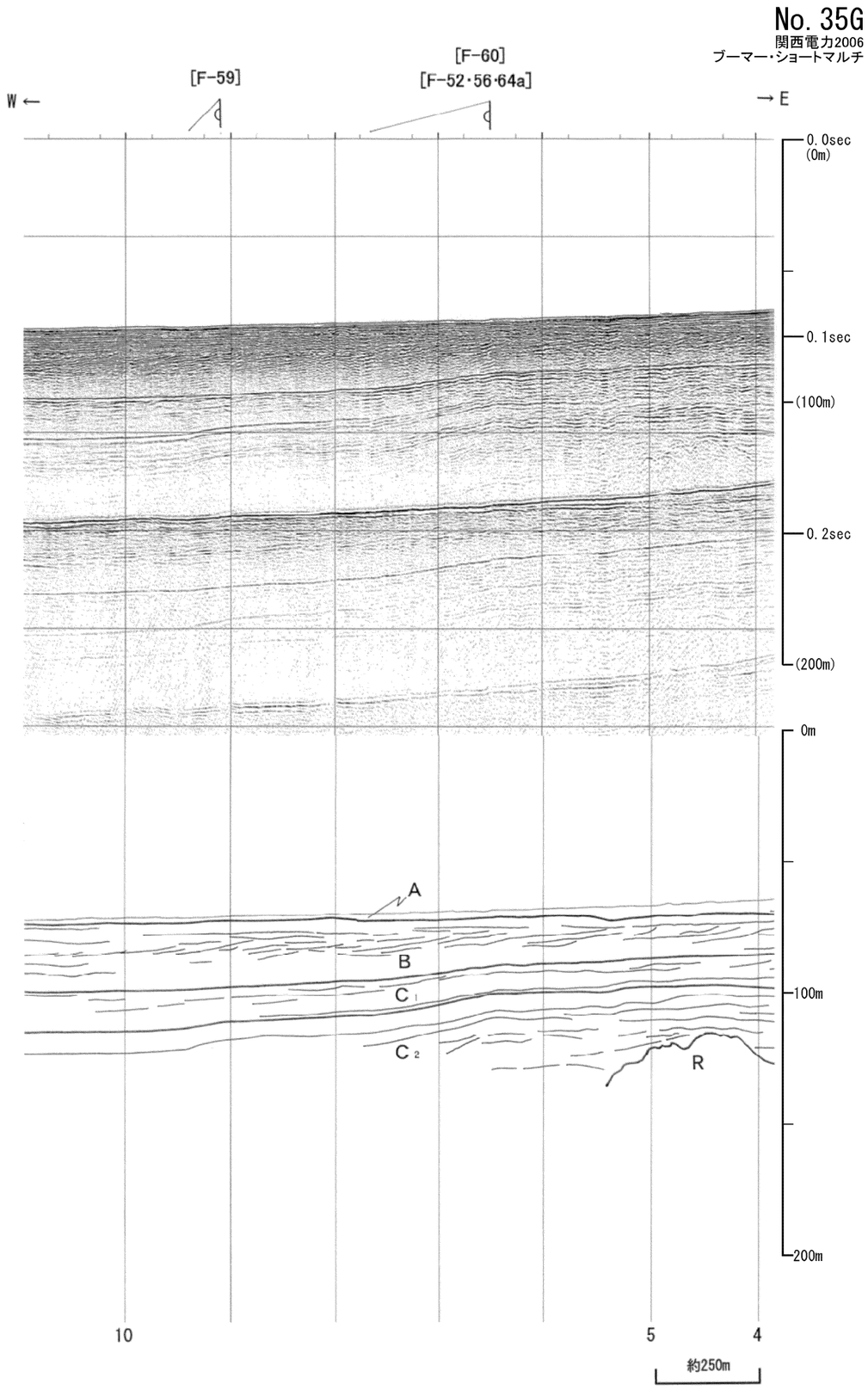
A　A層　完新統
B　B層　上部更新統
C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統
D　D層　下部～上部鮮新統
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統
断層
推定断層
地層境界
推定地層境界



数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.2.13図(10)　C断層の海上音波探査記録及び地質断面図（NGGM3-1）



凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 / 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 / 基部の延長位置 断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

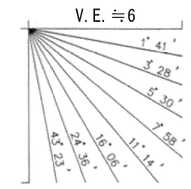
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界

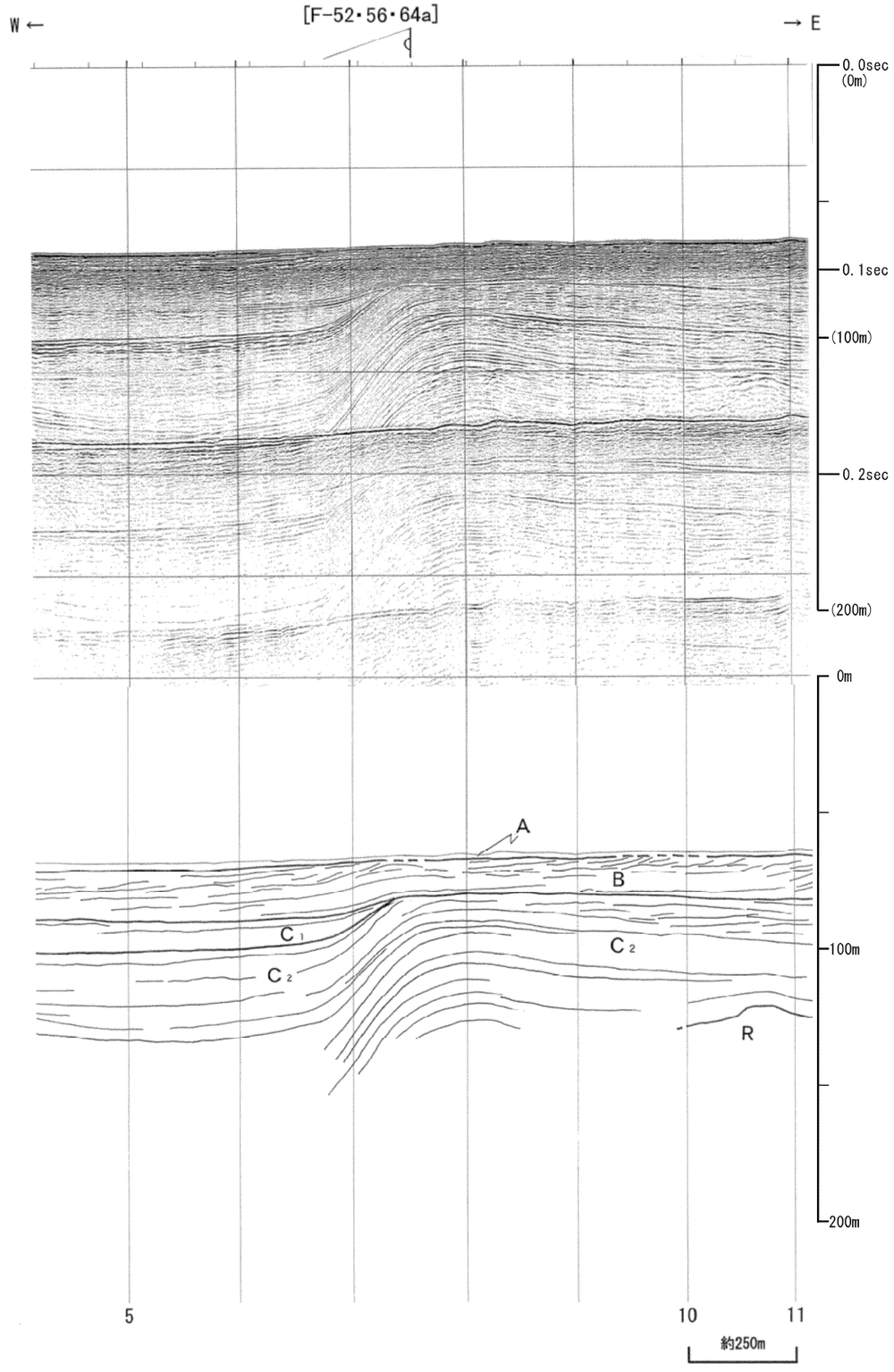


数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.2.13図(11)　C断層の海上音波探査記録及び地質断面図（No.35G）

No. 37-2G
関西電力2006
ブーマー・ショートマルチ



凡　例

[F-21]　断層及び断層番号

[F-2]　撓曲及び撓曲番号

基部 / 頂部　変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 / 基部の延長位置　断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

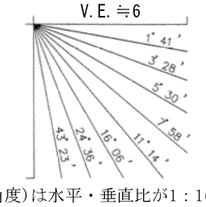
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

推定地層境界



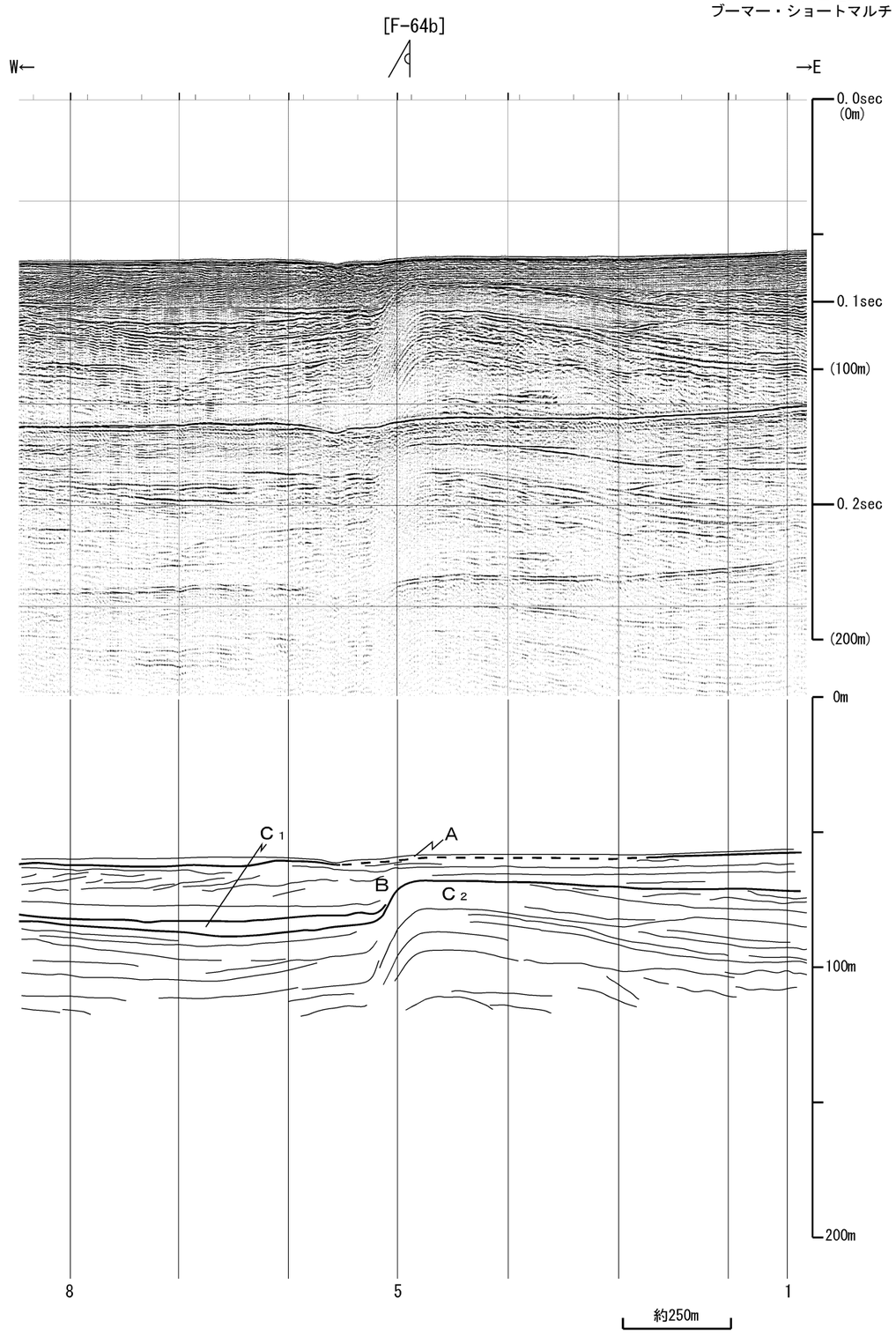
数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.2.13図(12)　C断層の海上音波探査記録及び地質断面図（No.37-2G）

No. 39G

関西電力2006
ブーマー・ショートマルチ

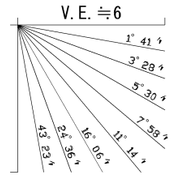


凡　例

[F-21]	断層及び断層番号
[F-2]	撓曲及び撓曲番号
基部 / 頂部	変形の及んでいる範囲
[F-2]延長部 / 基部の延長位置	断層又は撓曲の延長位置

凡　例

A	A層　完新統
B	B層　上部更新統
C (C1 C2 C3 C4)	C層　最上部鮮新統～中部更新統
D	D層　下部～上部鮮新統
R	R層　先鮮新統～最下部鮮新統
	断層
	推定断層
	地層境界
	推定地層境界

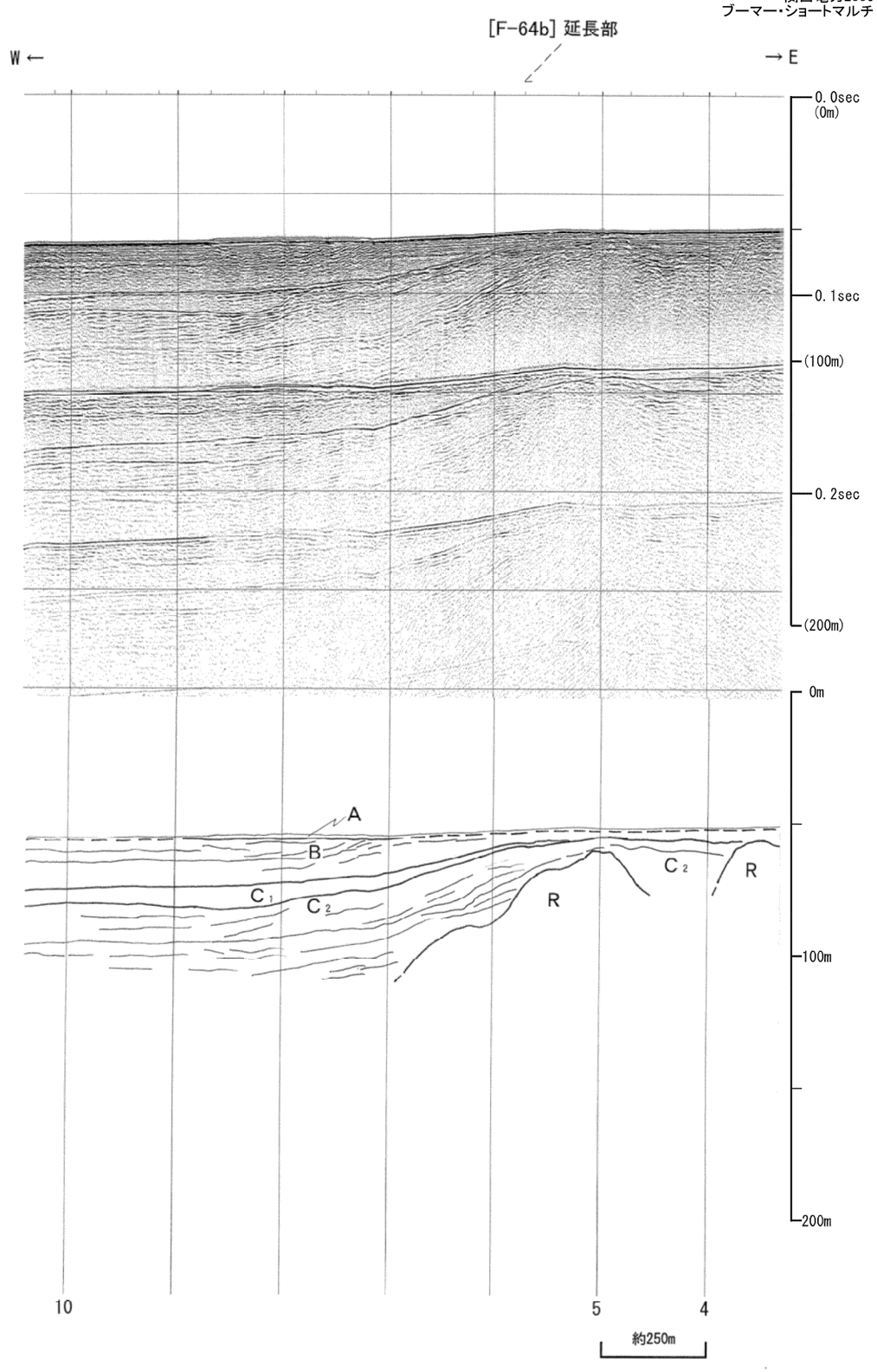


数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.2.13図(13)　C断層の海上音波探査記録及び地質断面図（No.39G）

No.41G
関西電力2006
ブーマー・ショートマルチ



凡　例

[F-21] 断層及び断層番号

[F-2] 撓曲及び撓曲番号

基部 頂部 変形の及んでいる範囲

[F-2]延長部 断層又は撓曲の延長位置
基部の延長位置

凡　例

A　A層　完新統

B　B層　上部更新統

C　C1 C2 C3 C4　C層　最上部鮮新統～中部更新統

D　D層　下部～上部鮮新統

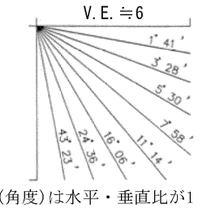
R　R層　先鮮新統～最下部鮮新統

断層

推定断層

地層境界

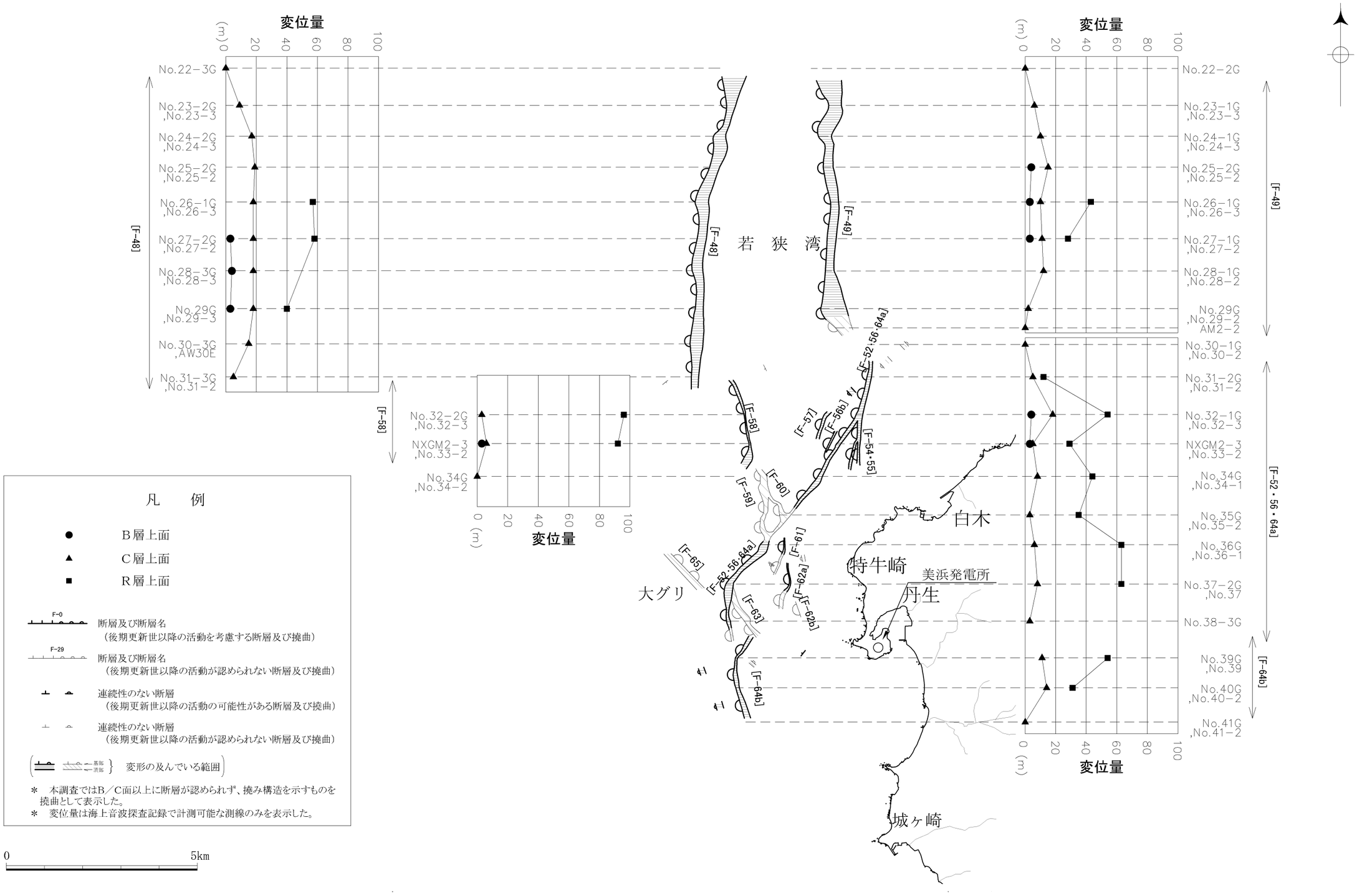
推定地層境界



数字(角度)は水平・垂直比が1：1の傾斜角度

深度スケールは音波の伝播速度を1500m/sとして換算した。

第1.2.3.2.13図(14)　C断層の海上音波探査記録及び地質断面図（No.41G）



凡　　例

- ● B層上面
- ▲ C層上面
- ■ R層上面

F−0　断層及び断層名
（後期更新世以降の活動を考慮する断層及び撓曲）

F−29　断層及び断層名
（後期更新世以降の活動が認められない断層及び撓曲）

連続性のない断層
（後期更新世以降の活動の可能性がある断層及び撓曲）

連続性のない断層
（後期更新世以降の活動が認められない断層及び撓曲）

基部 / 頂部　変形の及んでいる範囲

＊　本調査ではB／C面以上に断層が認められず、撓み構造を示すものを撓曲として表示した。
＊　変位量は海上音波探査記録で計測可能な測線のみを表示した。

0　5km

第1.2.3.2.14図　C断層の変位量分布図

凡　例

地質年代			地層名		記号	主な岩相・層相
新生代	第四紀	完新世	人工改変地		r	
			沖積層		a	礫・砂・シルト
	新第三紀	中新世	岩　脈		Do	ドレライト
	古第三紀		江若花崗岩	細粒黒雲母花崗岩	Grf	細粒黒雲母花崗岩
				粗粒黒雲母花崗岩	Grc	粗粒黒雲母花崗岩 (一部中粒黒雲母花崗岩)
中生代	白亜紀後期					

断面位置

原子炉建屋設置位置

節理面の走向・傾斜

断層面の走向・傾斜

貫入面の走向・傾斜

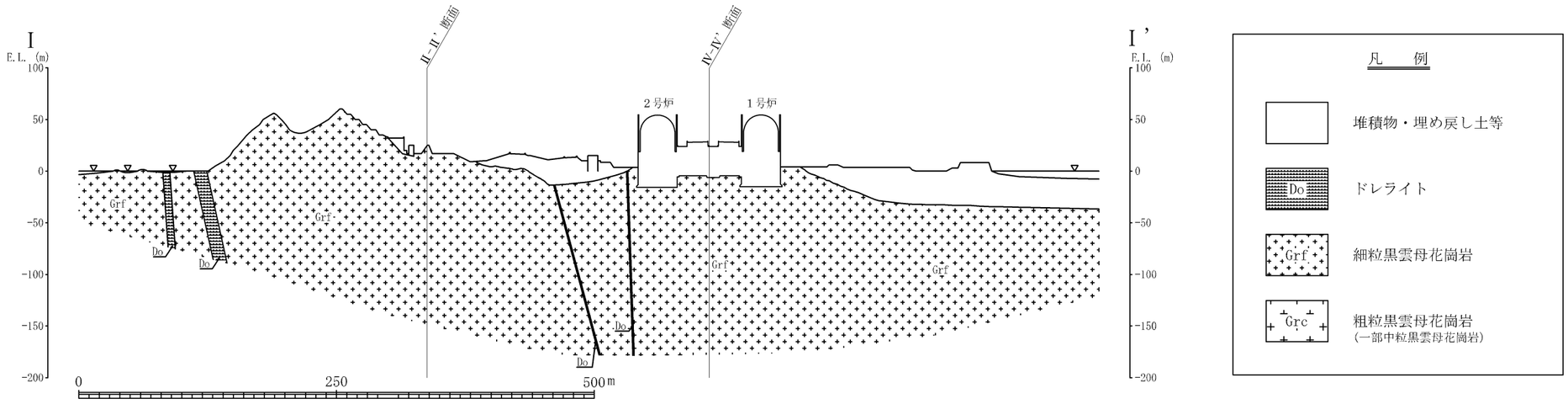
AMS-18　破砕部確認露頭位置

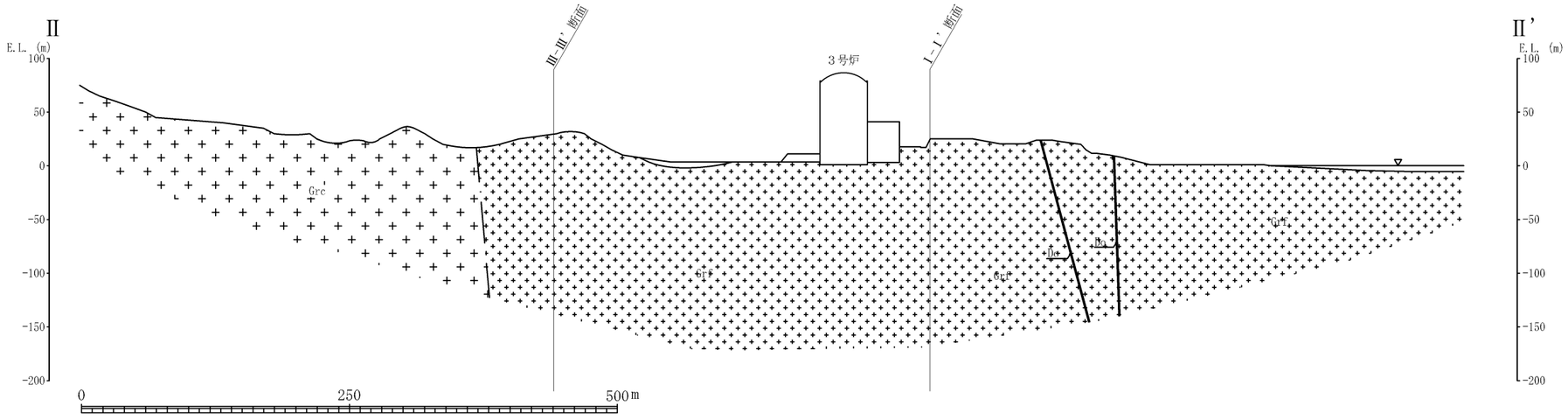
S＝1：5,000

0　250　500 m

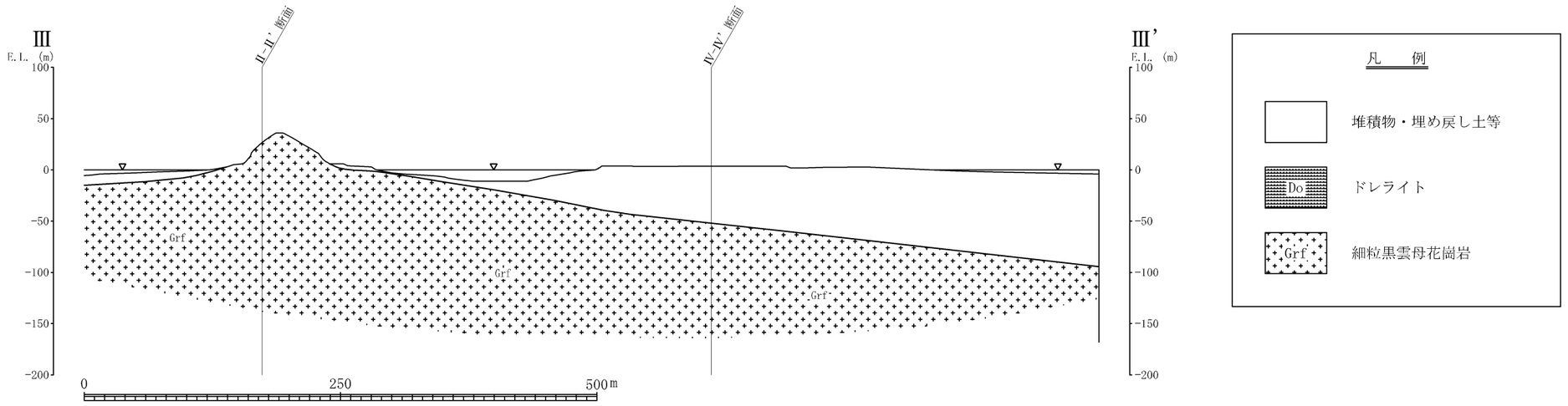
※AG-1、AG-2については、確認場所が近いことから、
AG-2の走向傾斜を引き出して記載。

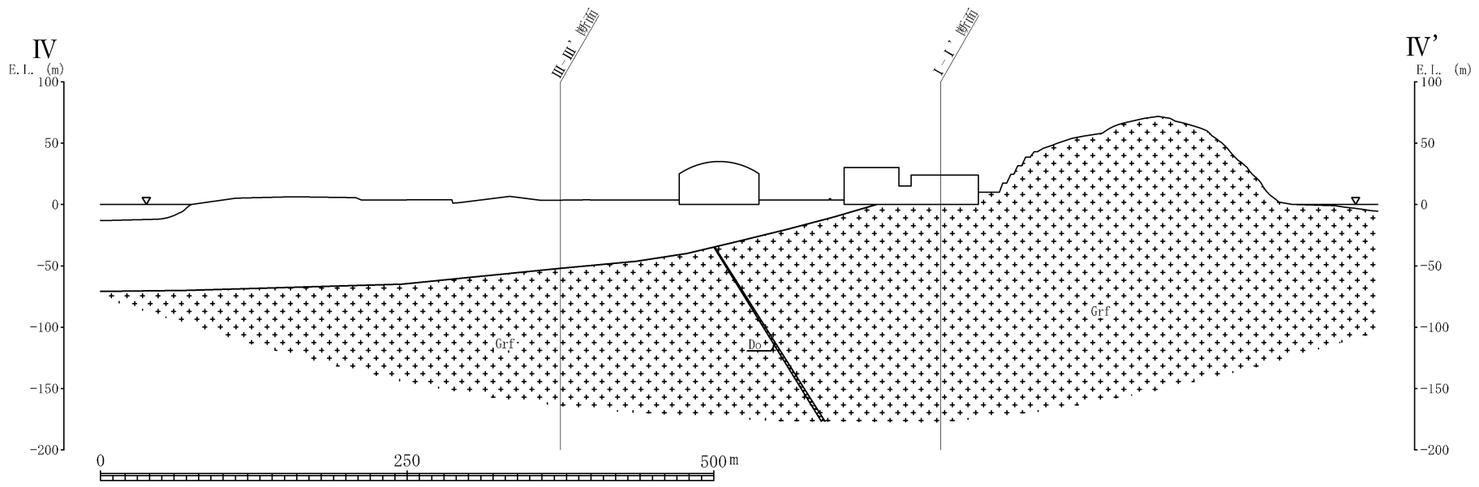
第1.2.3.3.1図　敷地の地質図





第1.2.3.3.2図(1)　敷地の地質断面図(1)





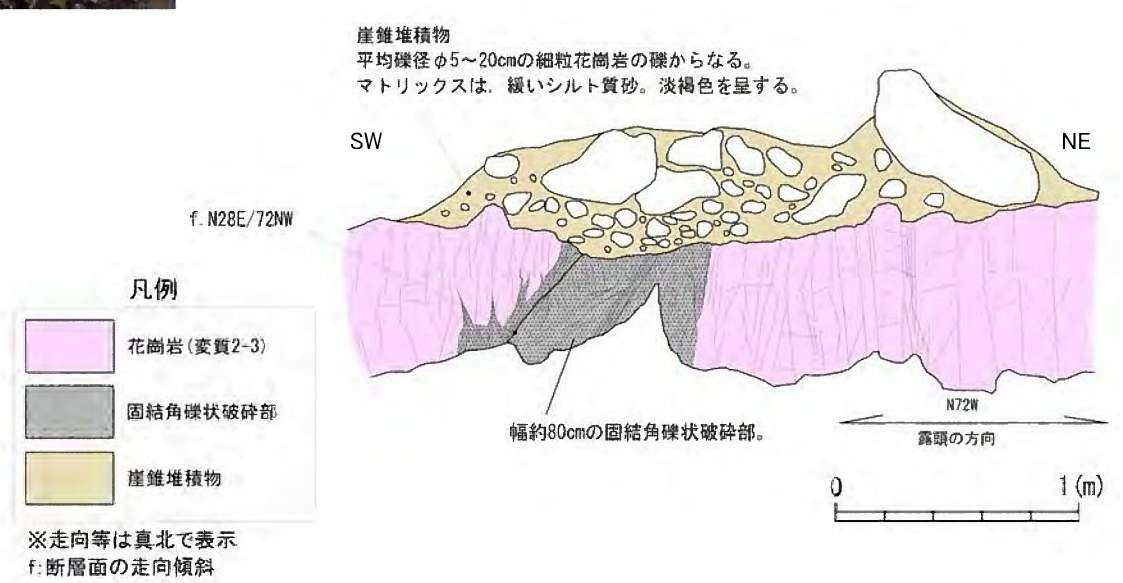
第1.2.3.3.2図(2)　敷地の地質断面図(2)

3号炉北東方の露頭(AMS-21)



全景写真

幅80cm程度の固結した角礫状破砕部。
走向・傾斜:N28E/72NW。
破砕部を覆う礫層に変位・変形は認められない。



第1.2.3.3.3図　3号炉北東方の露頭（AMS-21）の写真及びスケッチ

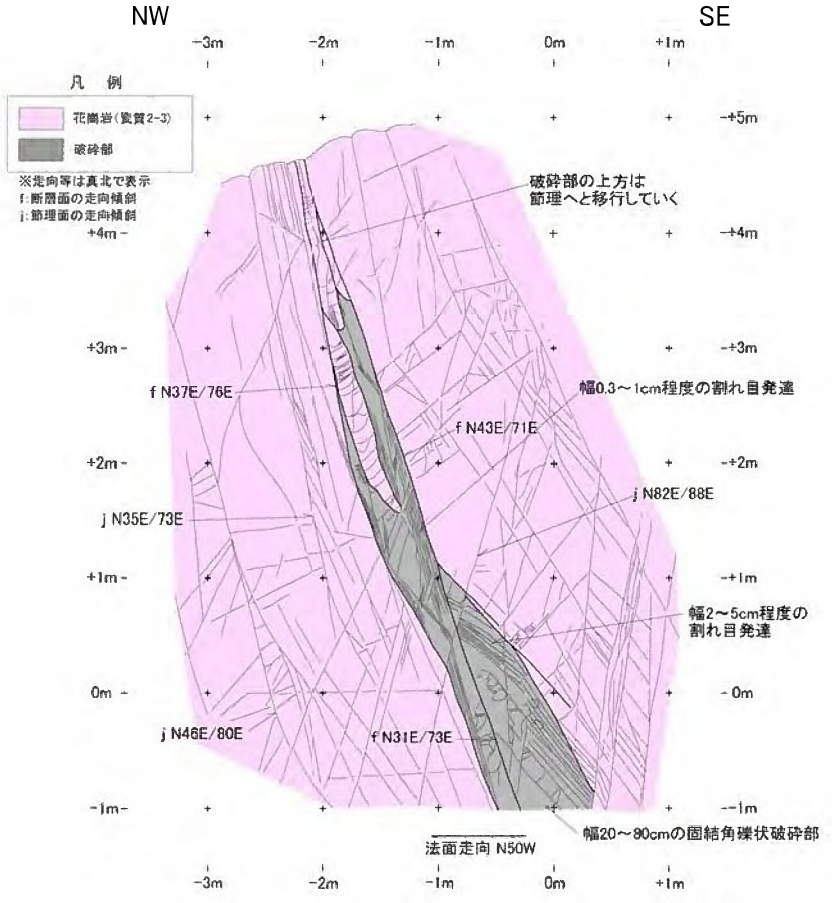
3号炉北方の露頭(AMUK-5)



全景写真



拡大写真



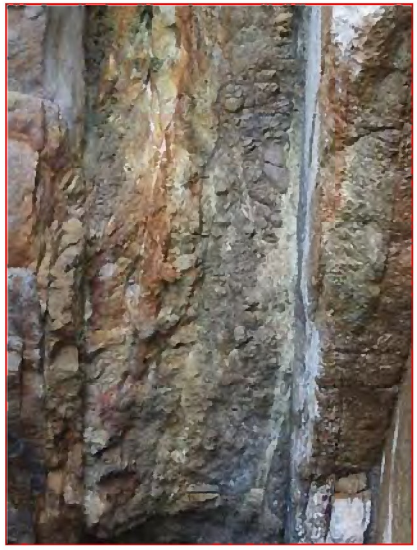
幅20cm～80cmの固結した角礫状破砕部。
連続性に富む主断層面は認められない。
破砕部右縁の走向・傾斜:N43E/71SE。
上方では、節理に移行していく。

第1.2.3.3.4図　3号炉北方の露頭（AMUK-5）の写真及びスケッチ

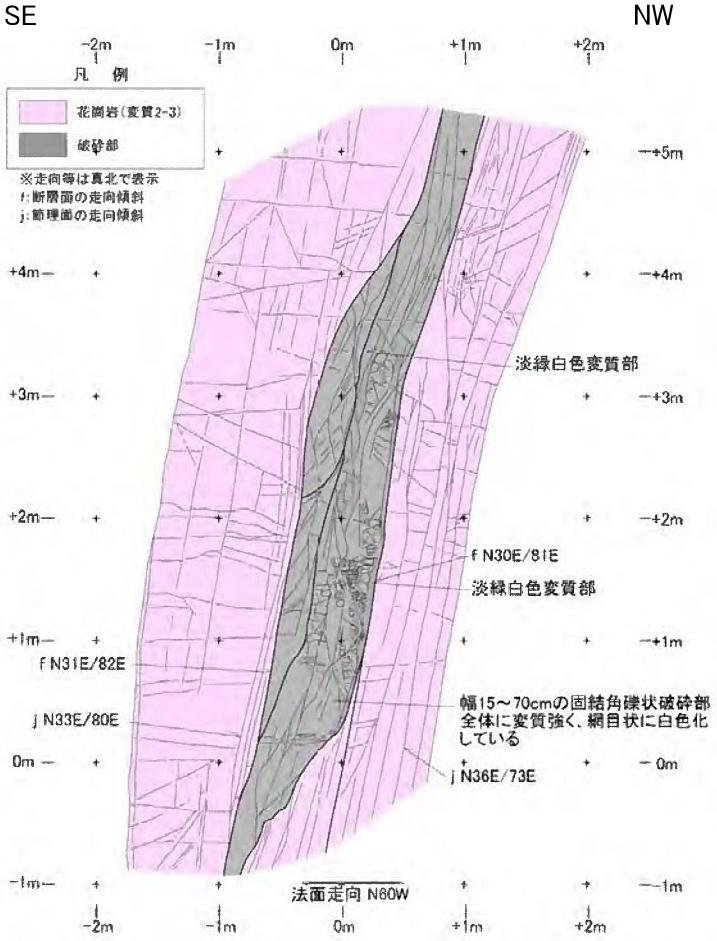
3号炉西方の露頭(AMS-19)



全景写真



拡大写真



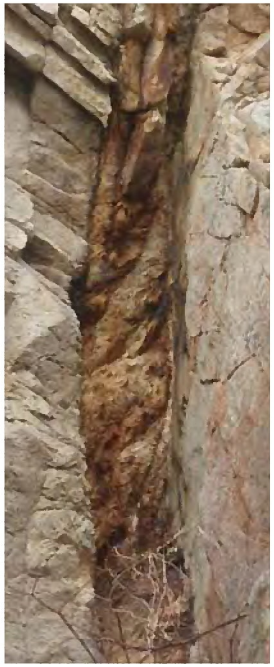
幅約15cm～約80cmの固結した角礫状破砕部。
破砕部は、海蝕洞の奥まで節理に沿っており、
20m程度奥で幅数mm程度に狭くなる。
破砕部右縁の走向・傾斜:N30E/81E。

第1.2.3.3.5図　3号炉西方の露頭（AMS-19）の写真及びスケッチ

3号炉西方の露頭(AMS-20)



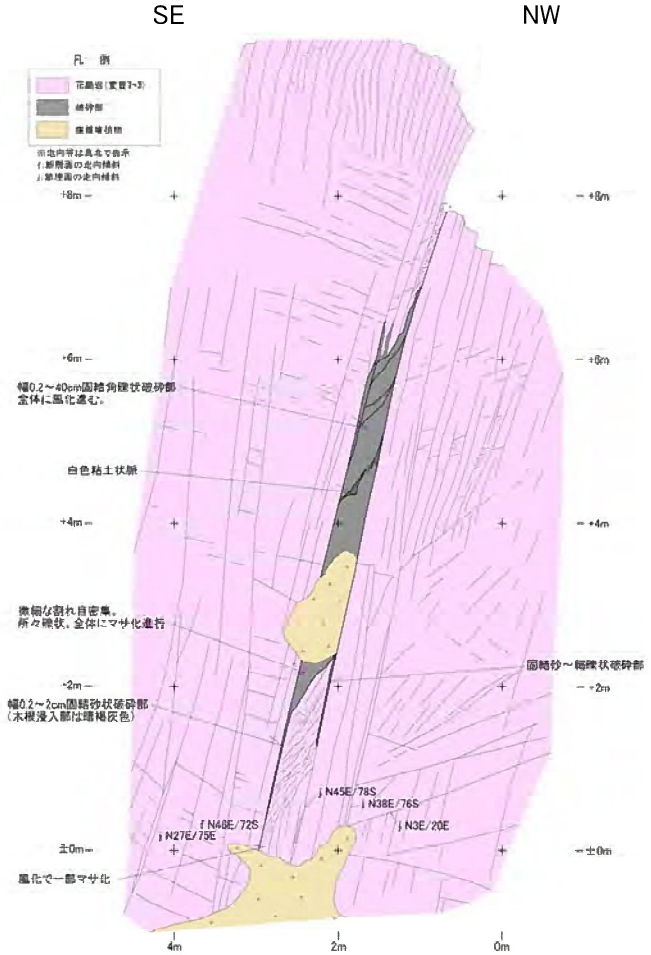
全景写真



上部拡大写真



下部拡大写真



幅0.2cm～40cmの固結した角礫状破砕部。全体に風化進む。
破砕部左縁の走向・傾斜:N46E/72E。
上部および下部の岩盤中で幅が狭くなり、
下部では0.2cm～2cm程度の固結砂状破砕部に移行する。

第1.2.3.3.6図　3号炉西方の露頭（AMS-20）の写真及びスケッチ

3号炉南西方の露頭(AMS-16)



全景写真

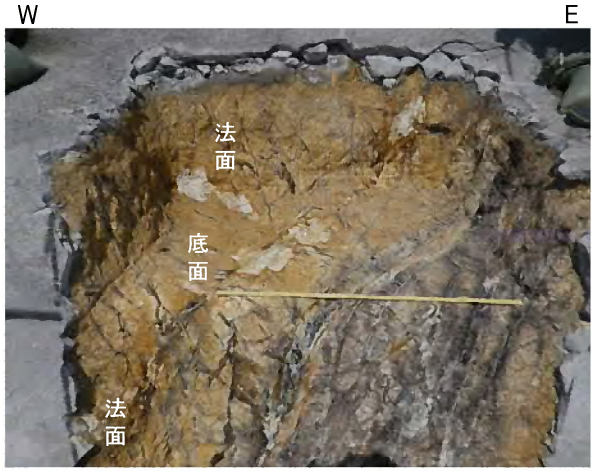


拡大写真

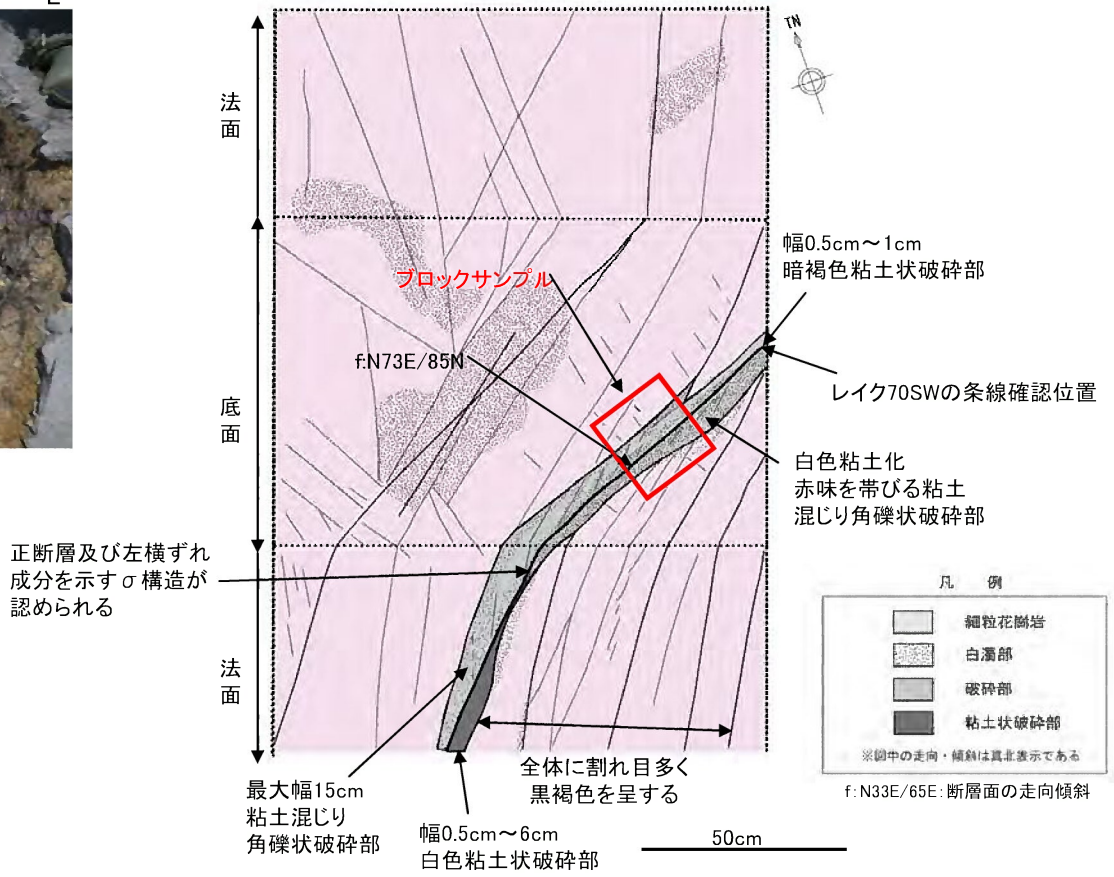


幅0.1cm～50cmの固結した角礫状破砕部。
左縁に沿って幅0.1cm～0.5cmの暗褐灰色粘土を伴う(左拡大写真)。
走向・傾斜:N46E/68S。
破砕部の上方はN30E方向の節理に沿って分布し、節理に移行していく。
下方も節理に沿って幅が狭くなる。

第1.2.3.3.7図　3号炉南西方の露頭（AMS-16）の写真及びスケッチ



AG-1破砕部の写真



AG-1破砕部のスケッチ

AG-1破砕部の性状
走向傾斜はN73E/85N。
破砕幅は7cm～15cm、粘土状破砕部と粘土混じり角礫状破砕部からなる。
露頭観察では正断層及び左横ずれ成分を示すσ構造が認められる。
また、最新面にレイク70SWの条線を確認した。

第1.2.3.3.8図　アゴ越付近の破砕部（AG-1）の露頭写真及びスケッチ

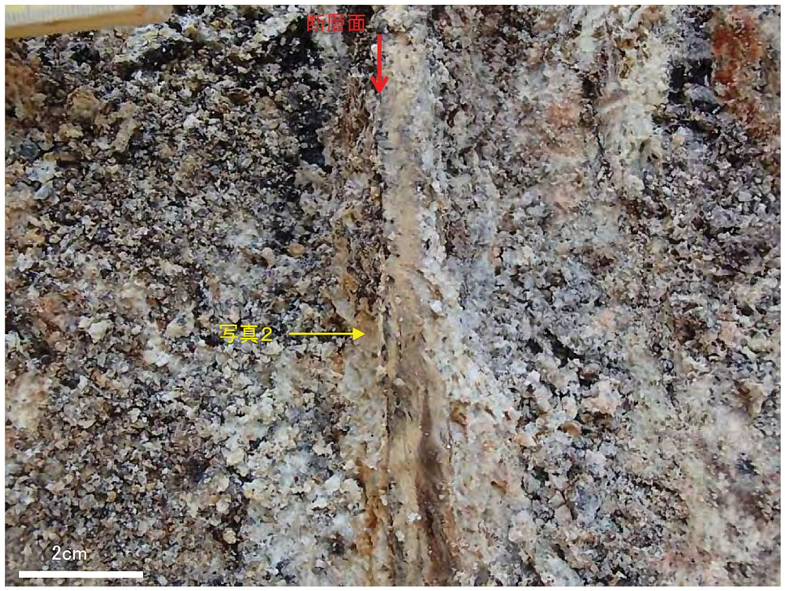
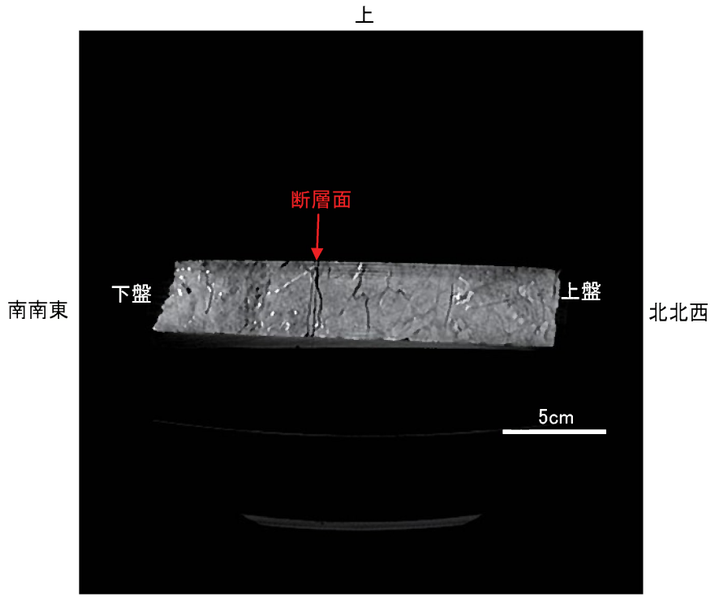


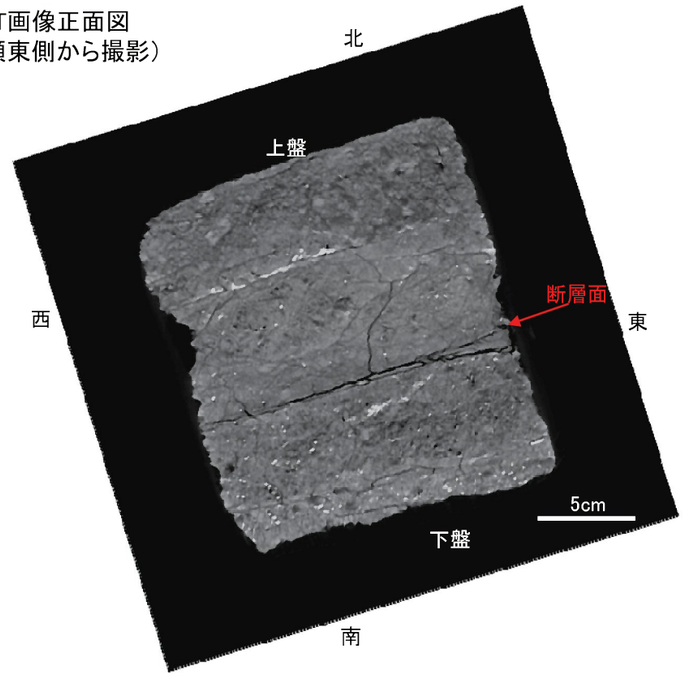
写真1



写真2：断層面上に70SWの条線が認められる。付加ステップの方向から、最新活動の運動センスは左横ずれ正断層である可能性がある。



CT画像正面図
（露頭東側から撮影）



CT画像水平図
（露頭を上から撮影）

断層面の走向/傾斜：N73E/85N、縦ずれ成分：不明、横ずれ成分：不明。
途切れることなく連続するY面が1条認められた。
さらに、このY面は直線性に優れることから断層面であると考えられる。
明瞭な密度変化は認められない。

第1.2.3.3.9図　アゴ越付近の破砕部（AG-1）のＣＴ画像観察および条線観察結果



凡例：白破線（断層面）、赤線（R1面）、青線（P面）

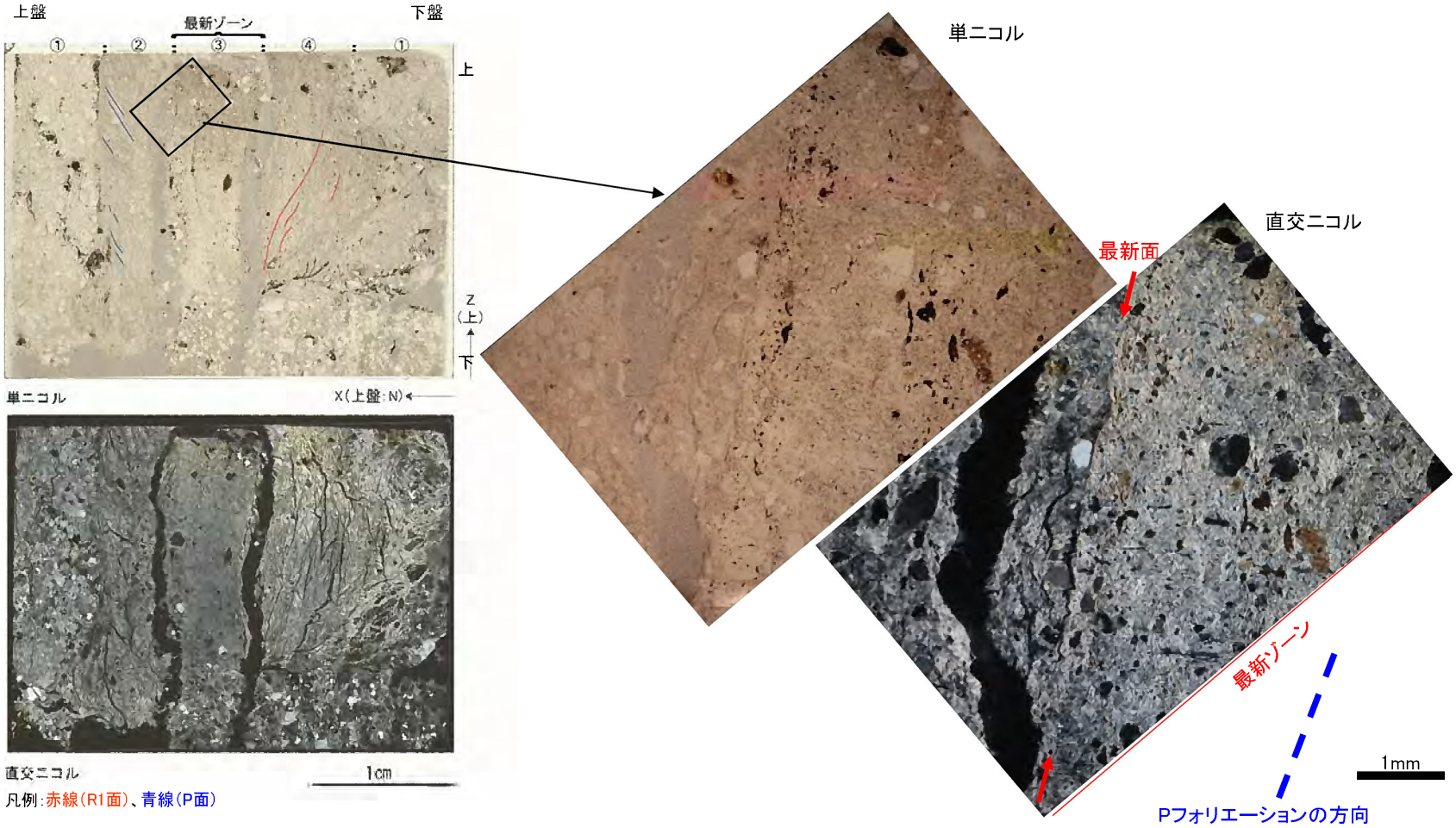
研磨片観察結果

・分帯：健岩とカタクレーサイト、粘土状破砕部が認められる。

・粘土状破砕部に沿って、研磨片を横断するY面が1条認められる。さらに、このY面は直線性に優れることから、断層面であると考えられる。断層面は主に粘土状破砕部と上盤側のカタクレーサイトを境界付け、研磨片上部で粘土状破砕部中を通過する。

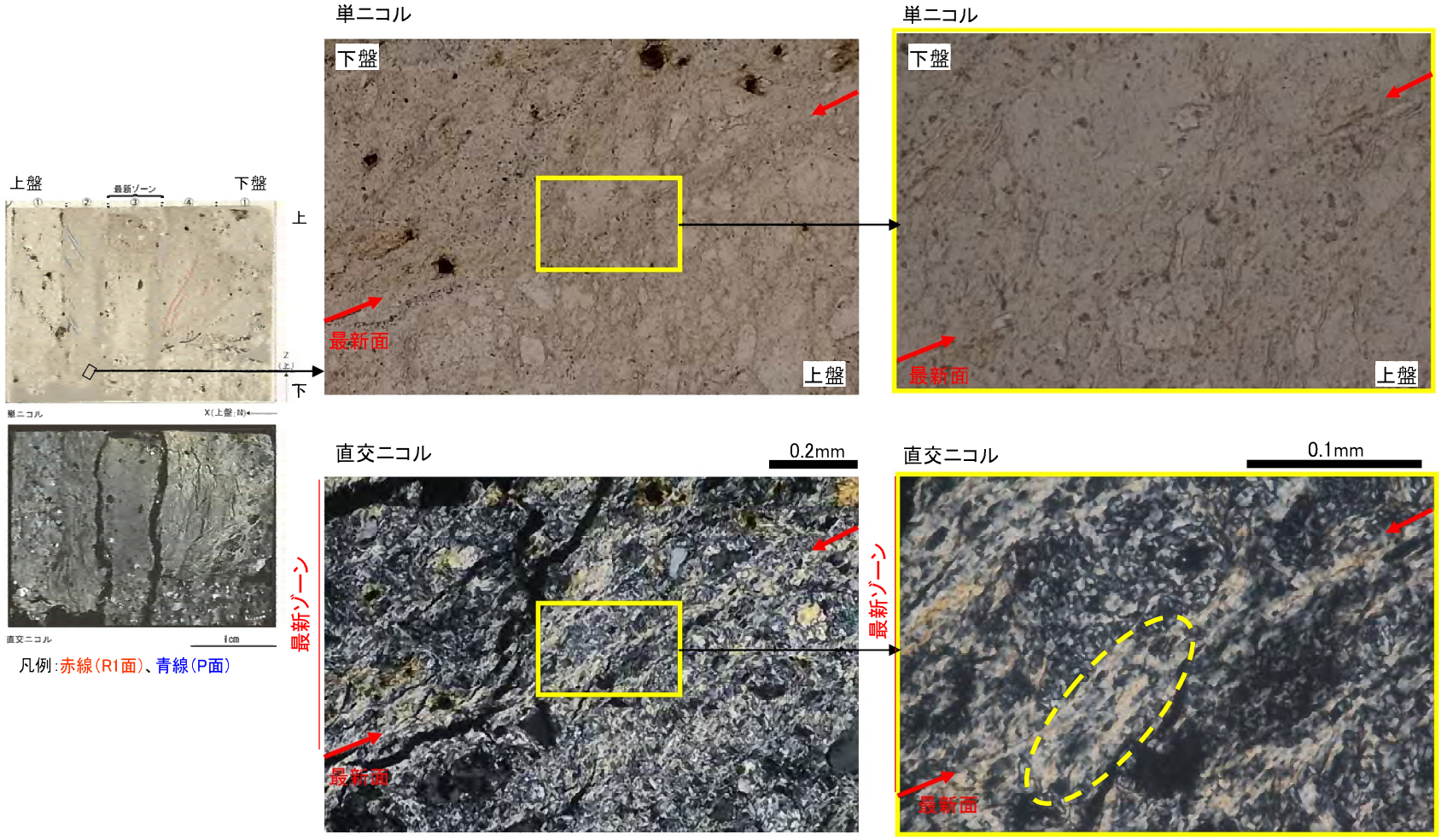
・カタクレーサイト中のY面に沿って逆断層成分を示す複合面構造が認められる。さらに、断層面に沿う粘土状破砕部中に左横ずれを伴う正断層センスを示す変形指標が認められる。これらのことから、運動センスが逆断層から左横ずれを伴う正断層に反転した可能性がある。

第1.2.3.3.10図　アゴ越付近の破砕部（AG-1）の研磨片観察結果



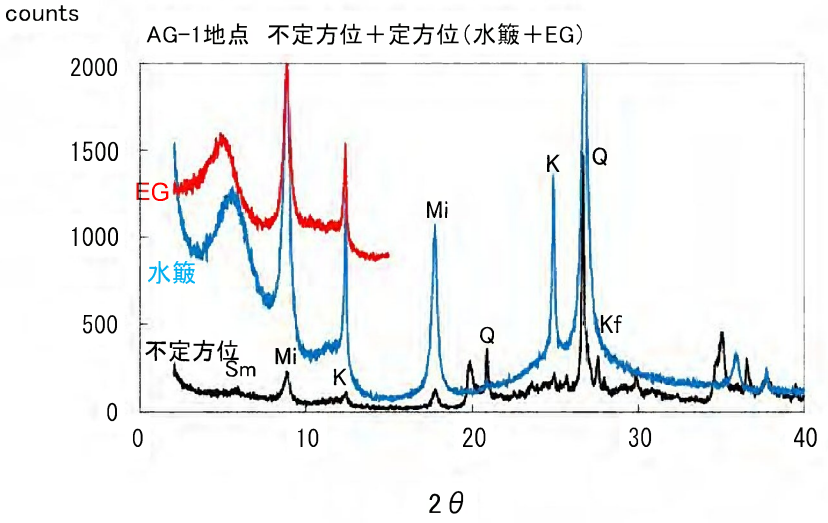
・観察の結果、①カタクレーサイト、②細～中粒粘土状破砕部(細粒砕屑物に富む)、③極細粒粘土状破砕部(一部中粒フラグメントを含む)、④細粒粘土状破砕部(③に比べ細粒粘土鉱物が発達、薄片下部で消滅)に分帯される。③が最新ゾーンである。最新面は極細粒粘土状破砕部(③)と細～中粒粘土状破砕部(②)の境界に位置する。最新ゾーンには層状構造が認められない。
・最新面に沿って左横ずれを伴う正断層センスを示すPフォリエーションが認められる。
・断層の走向傾斜がN73E/85N、条線角度が70SWであることから、最新活動は左横ずれを伴う正断層センスである。

第1.2.3.3.11図(1)　アゴ越付近の破砕部（AG-1）の薄片観察結果(1)

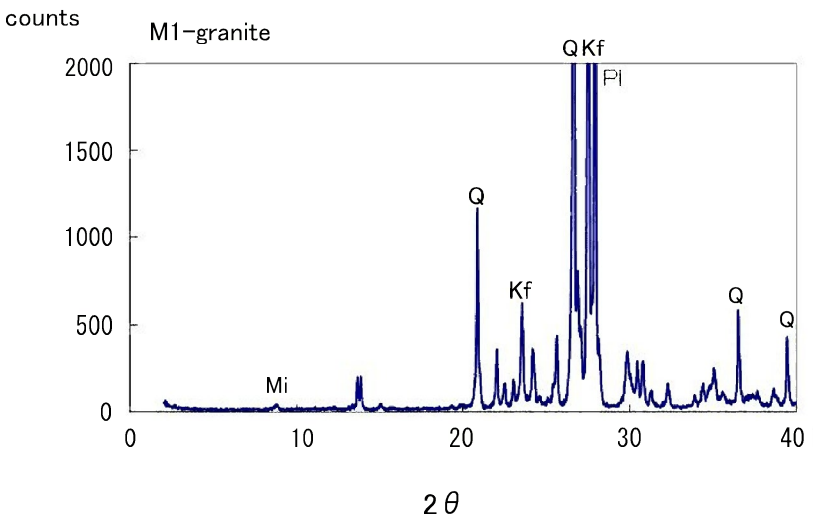


・最新面及びその周辺に粘土鉱物が網目状に発達し、最新面を横断しているものがあり、変形していない。

第1.2.3.3.11図(2)　アゴ越付近の破砕部（AG-1）の薄片観察結果(2)



アゴ越（AG-1）破砕部のチャート



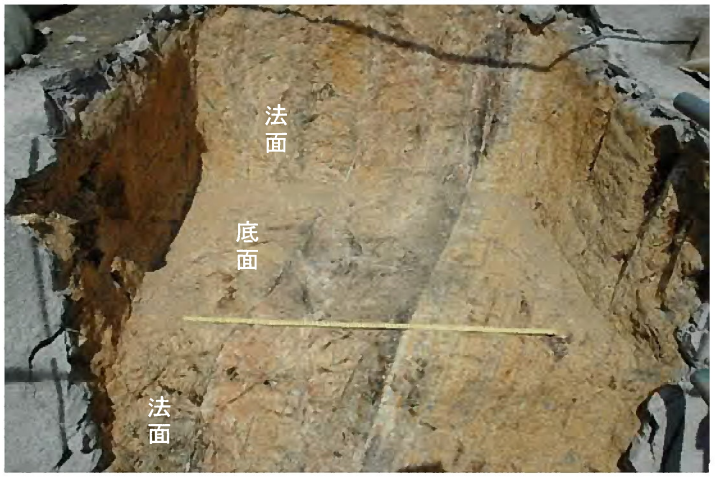
新鮮な花崗岩のチャート

水簸及びEG処理を施した試料の回折パターンは、見やすくするため
不定方位の回折パターンの上方にずらして表示した。

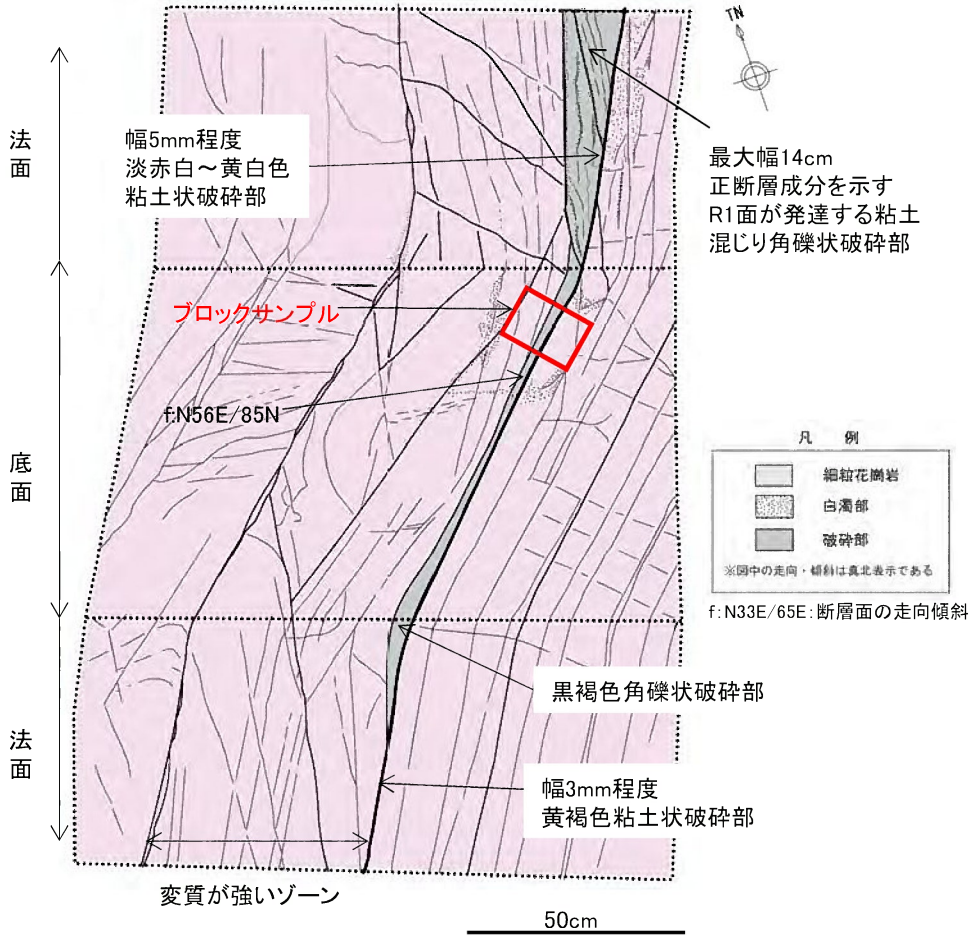
・AG-1破砕部は、新鮮花崗岩と比べ斜長石の割合が小さくなっている。
・一方、AG-1破砕部はスメクタイト、雲母粘土鉱物、カオリン鉱物が生成している。
・よって、AG-1破砕部は熱水変質作用を受けていると判断される。

記号凡例
Q：石英
Pl：斜長石
Kf：カリ長石
Sm：スメクタイト
Mi：雲母粘土鉱物
K：カオリン鉱物

第1.2.3.3.12図　アゴ越付近の破砕部（AG-1）のXRD分析結果



AG-2の写真



AG-2のスケッチ

走向傾斜はN56E/85N。
破砕幅は0.3cm～14cm、粘土状破砕部と粘土混じり角礫状破砕部からなる。
露頭観察では正断層を示すR1面が認められる。
また、最新面にレイク45NEの条線を確認した。

第1.2.3.3.13図　アゴ越付近の破砕部（AG-2）の露頭写真(1)及びスケッチ

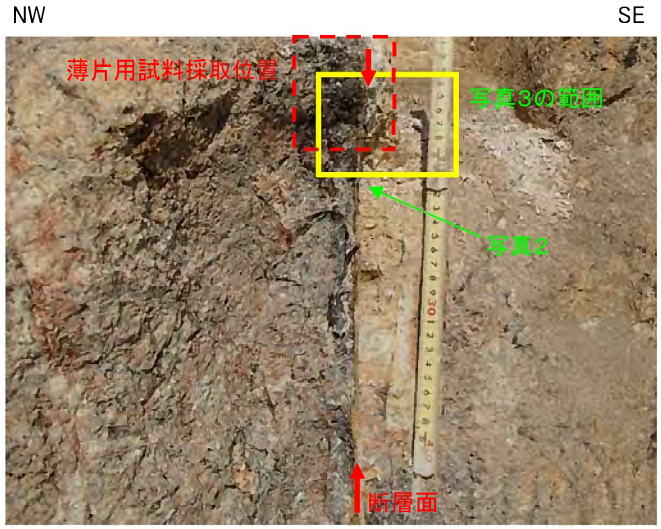


写真1



写真2：断層面上に黄褐色の粘土が網目状に発達する。

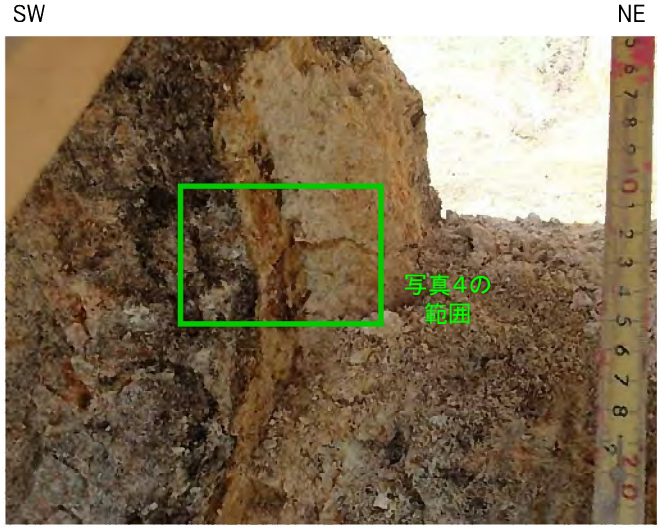


写真3

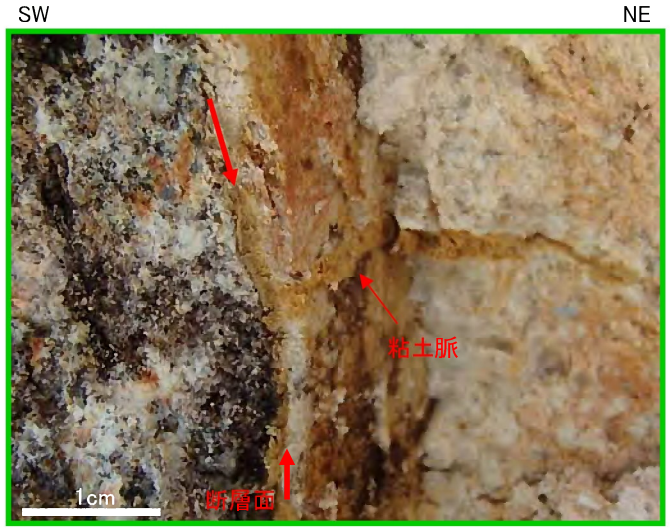
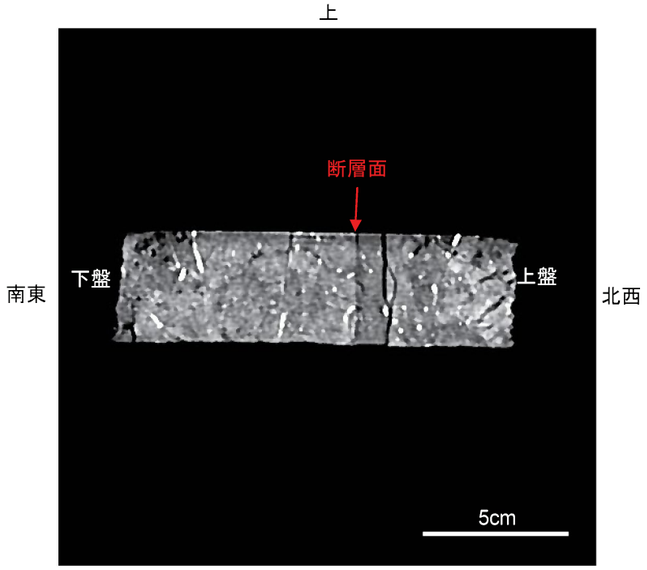
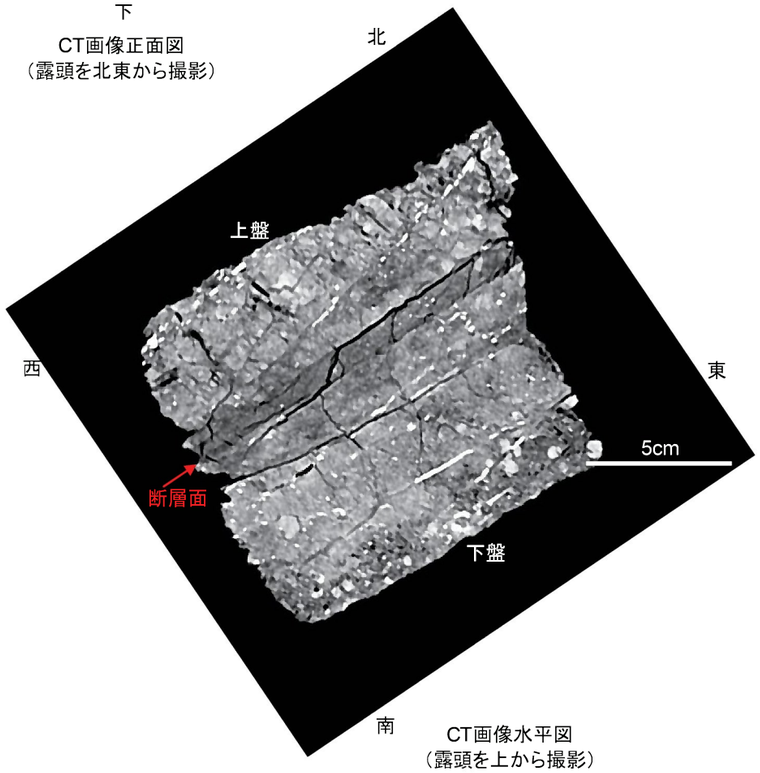


写真4：断層面に直交する方向に粘土脈が分布しており、薄片を作成して、断層面との関係を観察する。

第1.2.3.3.14図　アゴ越付近の破砕部（AG-2）の露頭写真(2)



CT画像正面図
（露頭を北東から撮影）



CT画像水平図
（露頭を上から撮影）

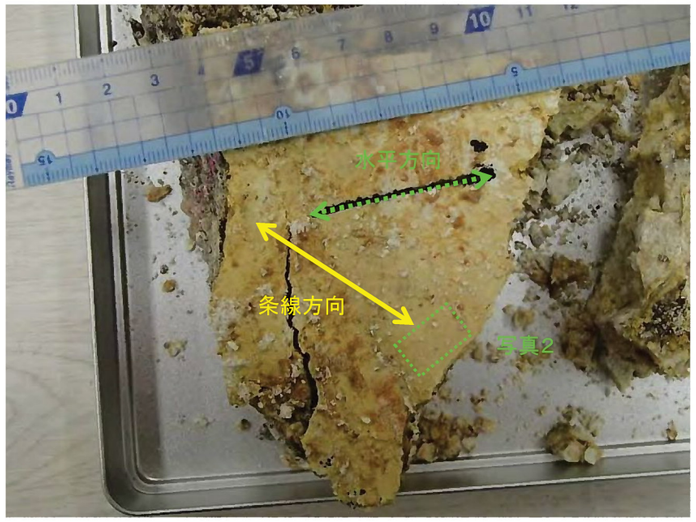


写真1：条線観察用試料-断層面-上盤下面を観察

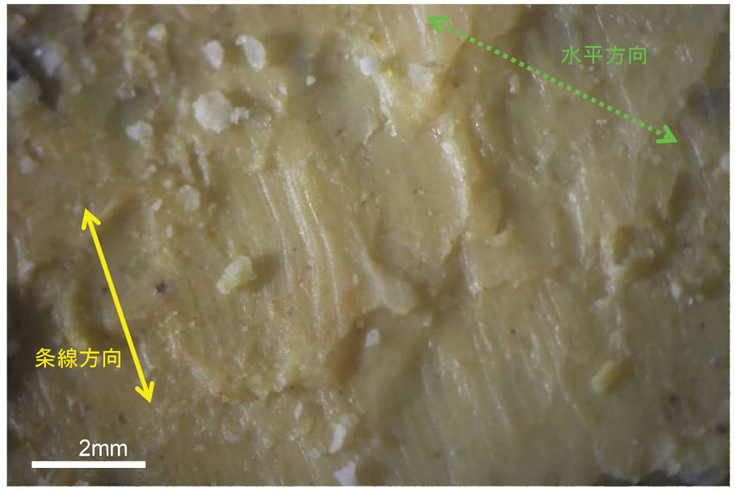
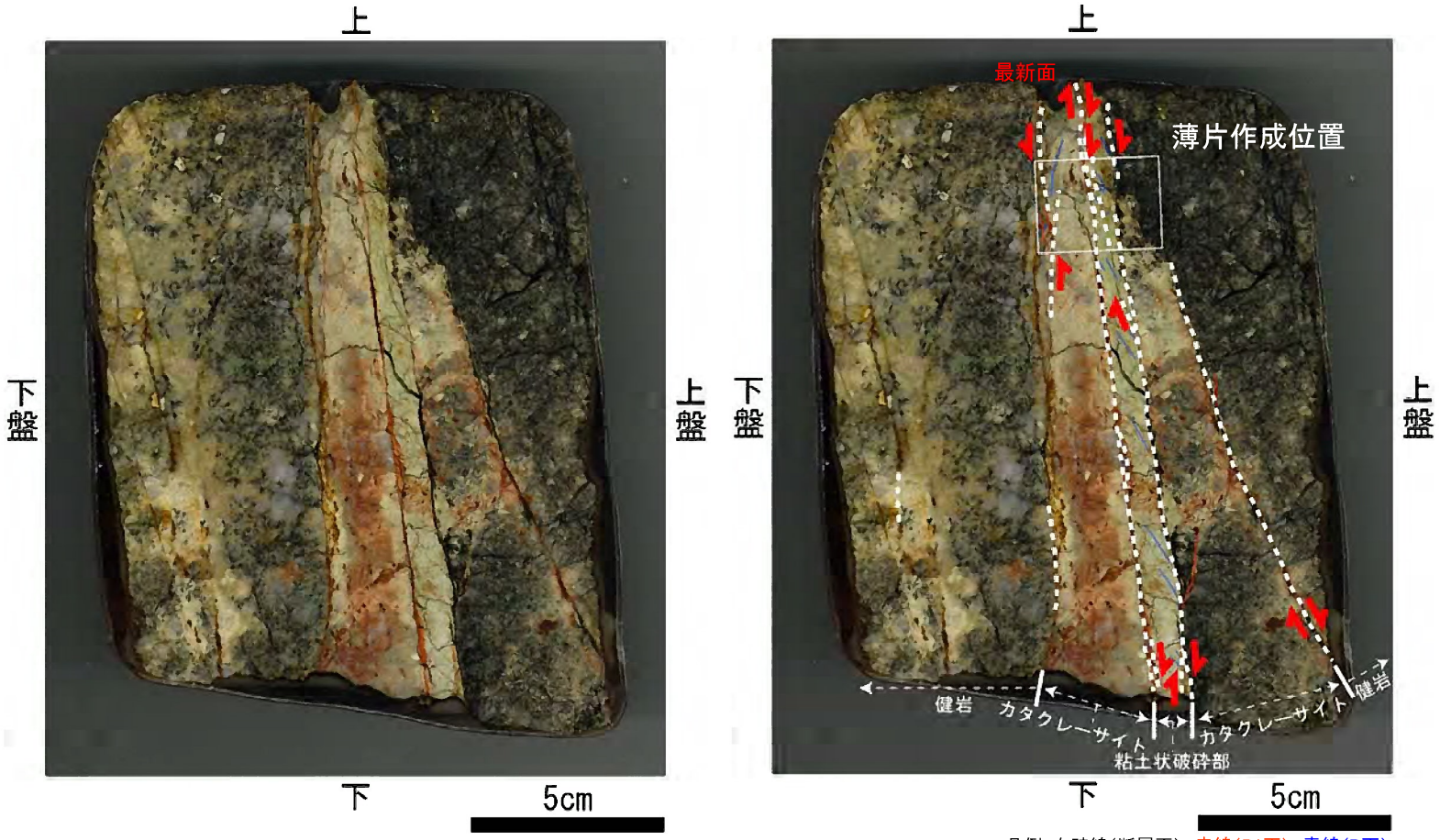


写真2：上盤下面で観察しているため、復元するとレイク45NEの条線である
ことがわかる。

断層面の走向/傾斜：N56E/85N。
縦ずれ成分：不明、横ずれ成分：右横ずれ（低密度部）。
研磨片中に途切れることなく連続するY面が1条認められた。このY面は直線性に優れる。
さらに、このY面に沿って幅1cm程度の低密度部が認められたことから、このY面が断層面であると考えられる。

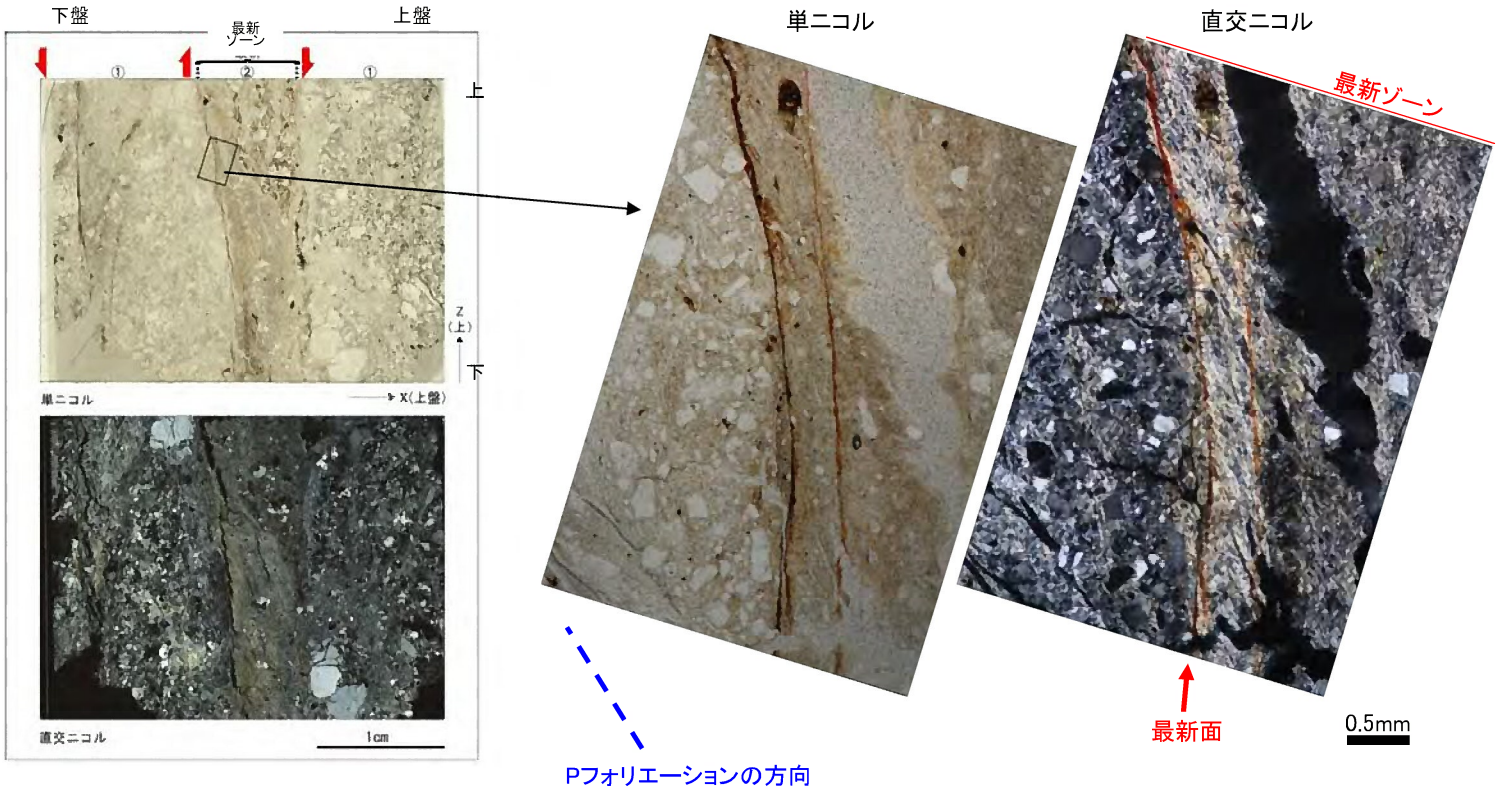
第1.2.3.3.15図　アゴ越付近の破砕部（AG-2）のＣＴ画像観察および条線観察結果



凡例：白破線（断層面）、赤線（R1面）、青線（P面）

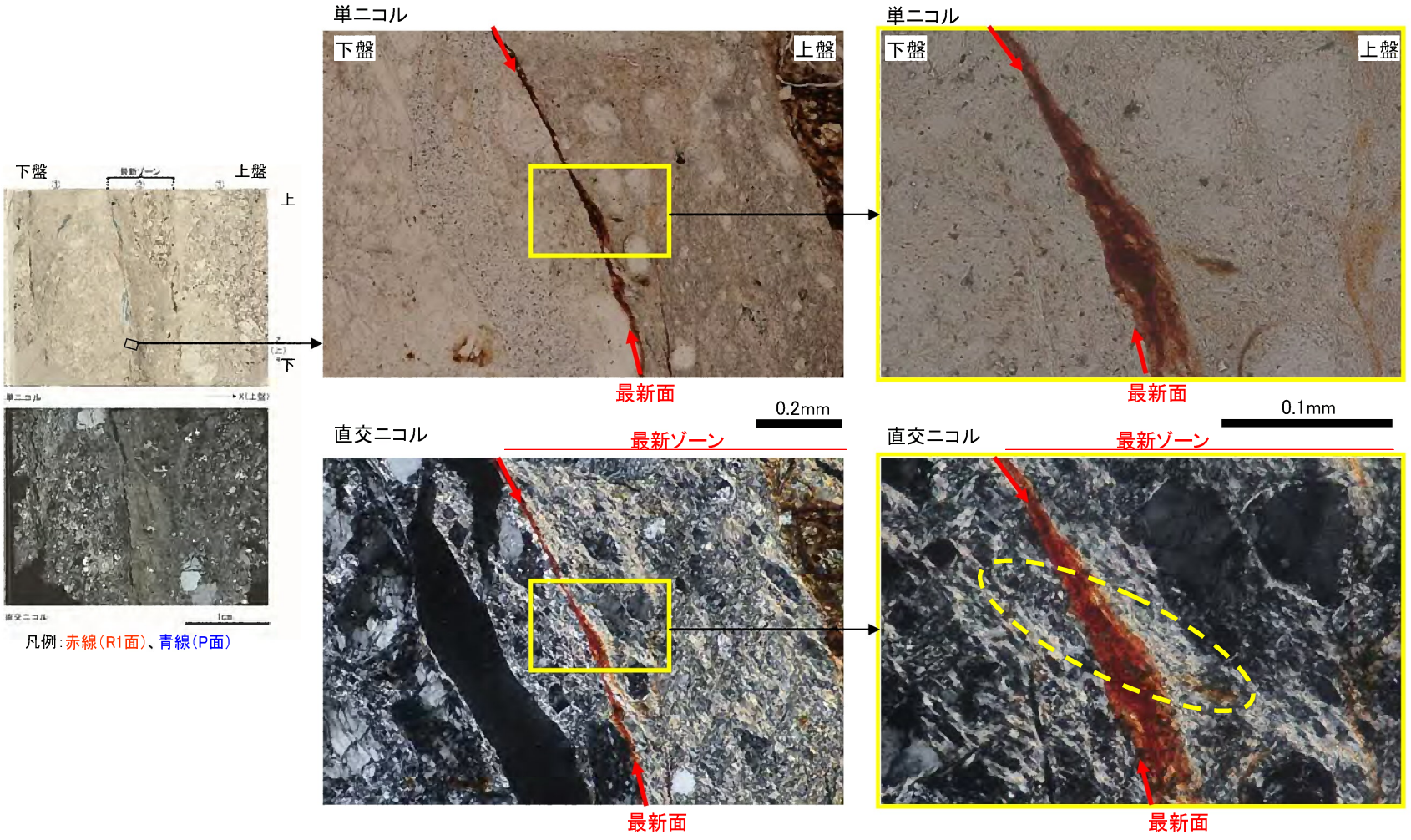
研磨片観察結果
・分帯：健岩とカタクレーサイト、粘土状破砕部が認められる。
・粘土状破砕部に沿って、研磨片を横断するY面が1条認められる。さらに、このY面は直線性に優れることから、最新面であると考えられる。最新面は主に粘土状破砕部と下盤側のカタクレーサイトを境界付ける。
・下盤側のカタクレーサイト中のY面に沿って左横ずれを伴う逆断層センスを示す複合面構造が認められる。さらに、最新面に沿う粘土状破砕部中に右横ずれを伴う正断層センスを示す変形指標が認められる。これらのことから、運動センスが左横ずれを伴う逆断層から右横ずれを伴う正断層に反転した可能性がある。

第1.2.3.3.16図　アゴ越付近の破砕部（AG-2）の研磨片観察結果



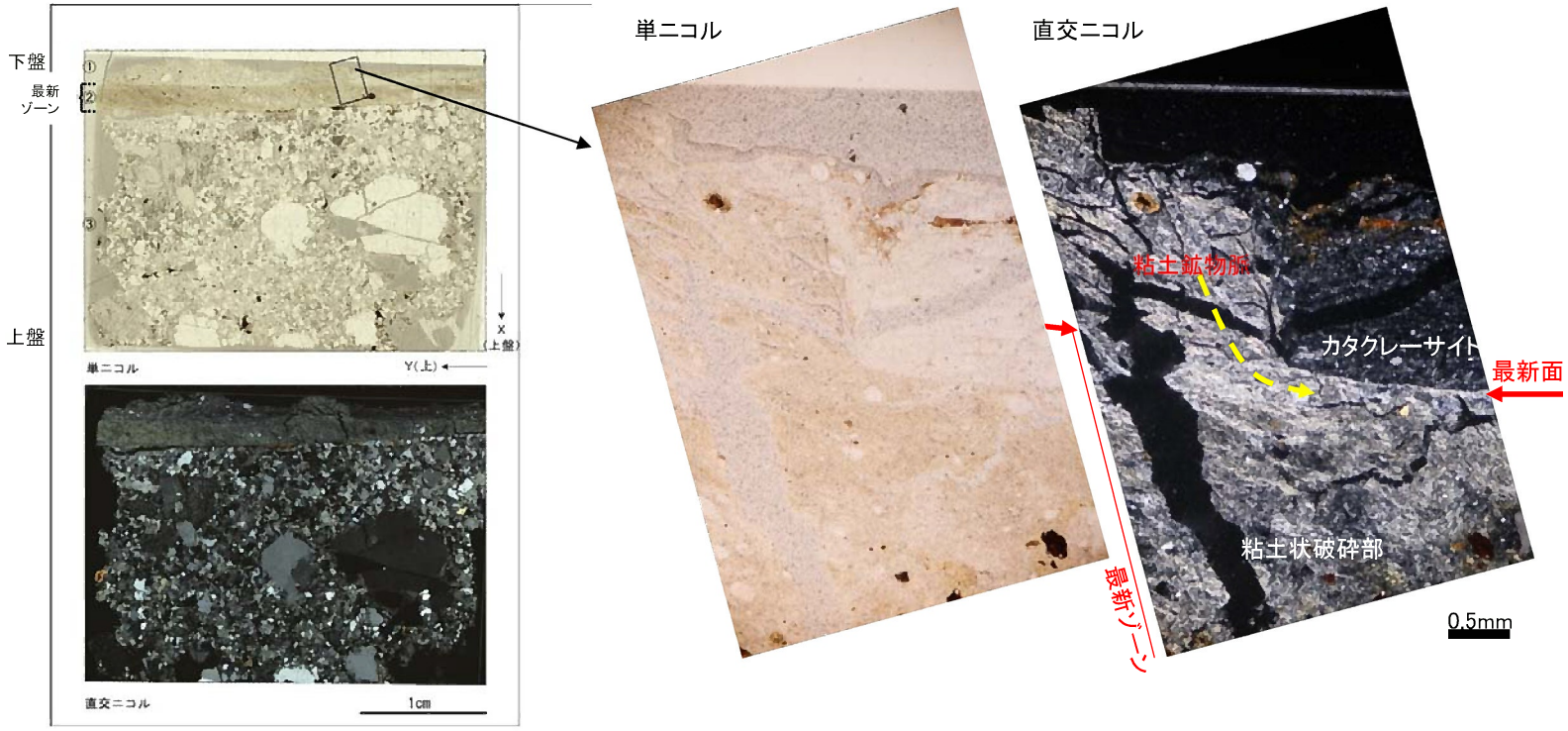
・観察の結果、①カタクレーサイト、②粘土状破砕部に分帯される。②が最新ゾーンである。最新面は粘土状破砕部（②）とカタクレーサイト（①）の下盤側境界に位置する。最新ゾーンには層状構造は認められない。
・最新面に沿う②中に右横ずれを伴う正断層センスを示すPフォリエーションが認められる。
・断層の走向傾斜がN56E/85N、条線角度が45NEであることから、最新活動は右横ずれを伴う正断層センスである。

第1.2.3.3.17図(1)　アゴ越付近の破砕部（AG-2）の薄片観察結果(1)



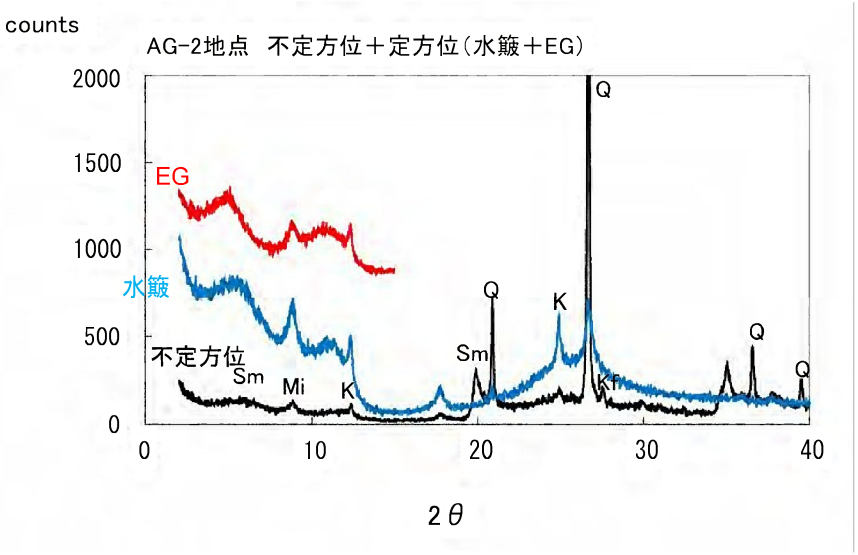
・最新面及びその周辺に粘土鉱物が網目状に発達し、最新面を横断しているものがあり、変形していない。

第1.2.3.3.17図(2)　アゴ越付近の破砕部（AG-2）の薄片観察結果(2)

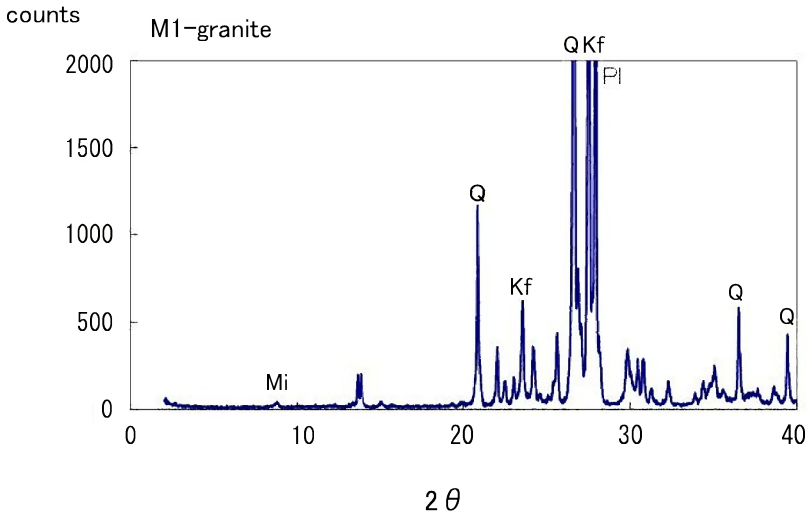


・薄片観察の結果、①カタクレーサイト、②粘土状破砕部、③健岩に分帯される。②が最新ゾーンである。最新面は粘土状破砕部(②)とカタクレーサイト(①)の境界に位置する。最新ゾーンでは層状構造が認められない。
・最新面が粘土鉱物で充填され不明瞭になっている。
・カタクレーサイトを横断し、さらに最新面を横断して粘土状破砕部に入り込んでいる粘土鉱物脈が認められる。

第1.2.3.3.17図(3)　アゴ越付近の破砕部（AG-2）の薄片観察結果(3)



アゴ越（AG-2)破砕部のチャート



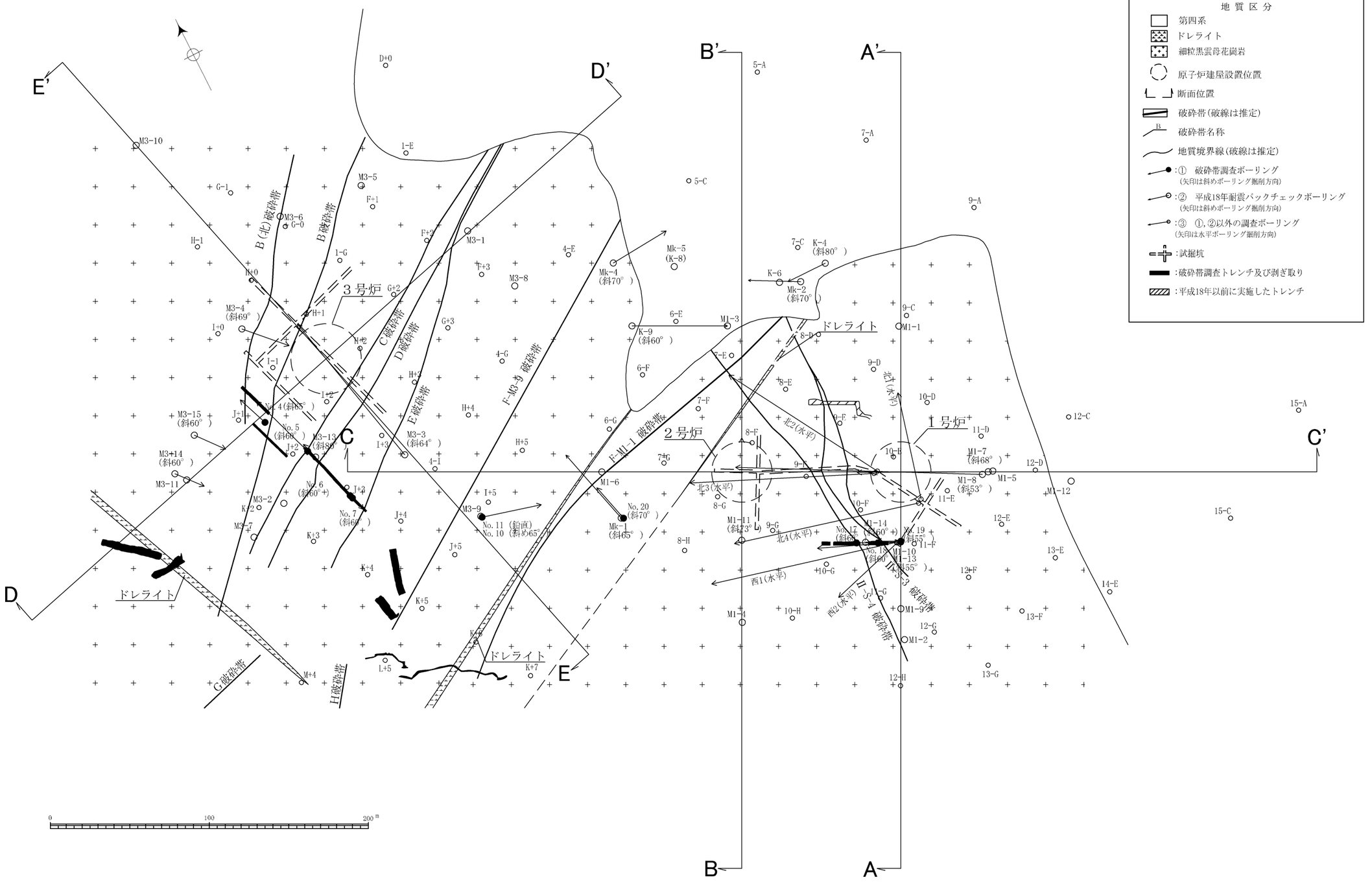
新鮮な花崗岩のチャート

水簸及びEG処理を施した試料の回折パターンは、見やすくするため
不定方位の回折パターンの上方にずらして表示した。

AG-2破砕部は、新鮮花崗岩と比べ斜長石やカリ長石の割合が小さくなっている。
一方、AG-2破砕部はスメクタイト、雲母粘土鉱物、カオリン鉱物が生成している。
よって、AG-2破砕部は熱水変質作用を受けていると判断される。

記号凡例
Q：石英
Pl：斜長石
Kf：カリ長石
Sm：スメクタイト
Mi：雲母粘土鉱物
K：カオリン鉱物

第1.2.3.3.18図　アゴ越付近の破砕部（AG-2）のXRD分析結果



第1.2.3.4.1図(1)　地質水平断面図（E.L.-20m）

凡　例

地 質 区 分

第四系

ドレライト

細粒黒雲母花崗岩

原子炉建屋設置位置

断面位置

破砕帯

破砕帯名称

地質境界線(破線は推定)

:①　破砕帯調査ボーリング
(矢印は斜めボーリング掘削方向)

:②　平成18年耐震バックチェックボーリング
(矢印は斜めボーリング掘削方向)

:③　①,②以外の調査ボーリング
(矢印は水平ボーリング掘削方向)

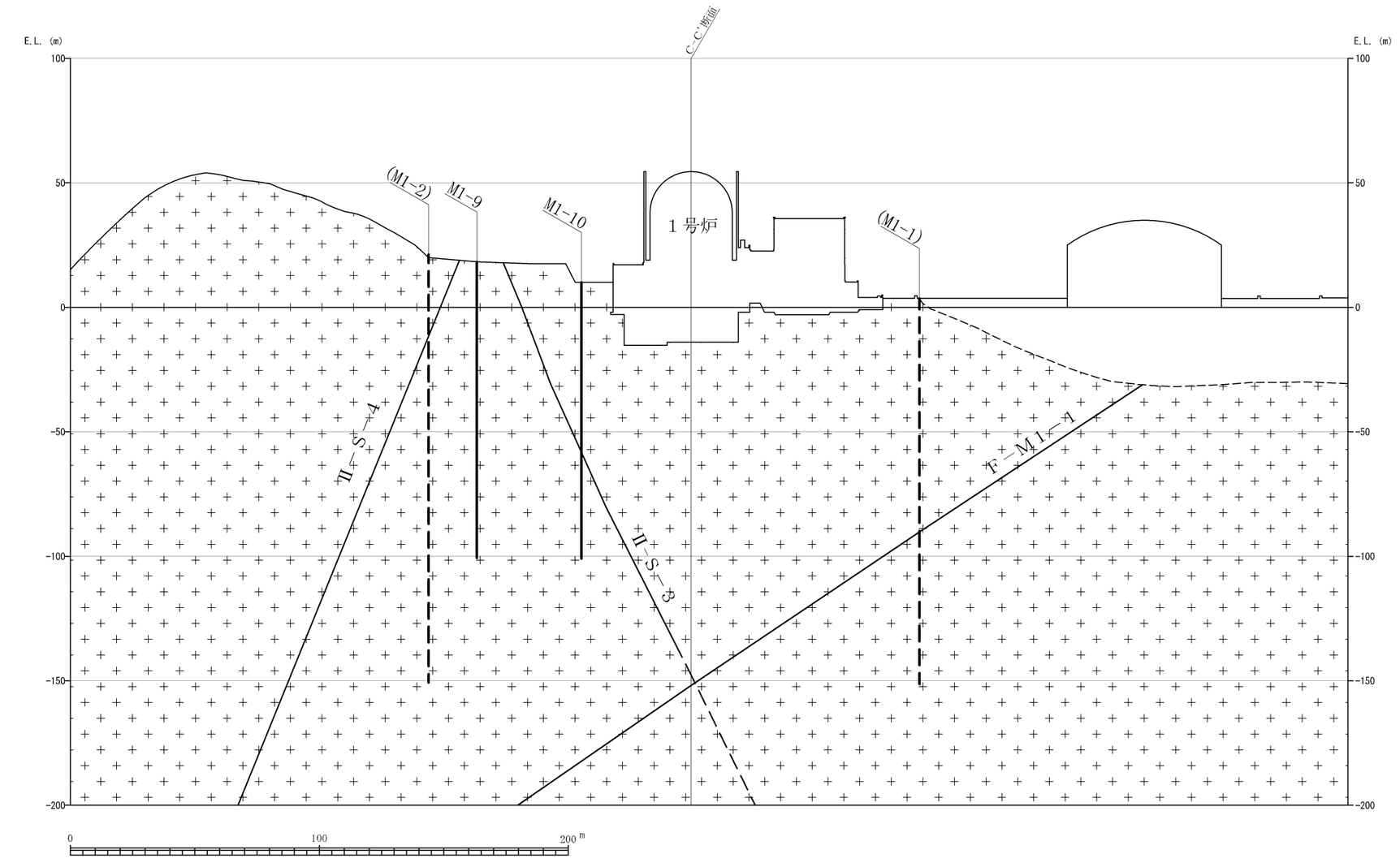
:試掘坑

:破砕帯調査トレンチ及び剥ぎ取り

:平成18年以前に実施したトレンチ

0　100　200 m

第1.2.3.4.1図(2)　地質水平断面図（E.L.+0m）



凡　例

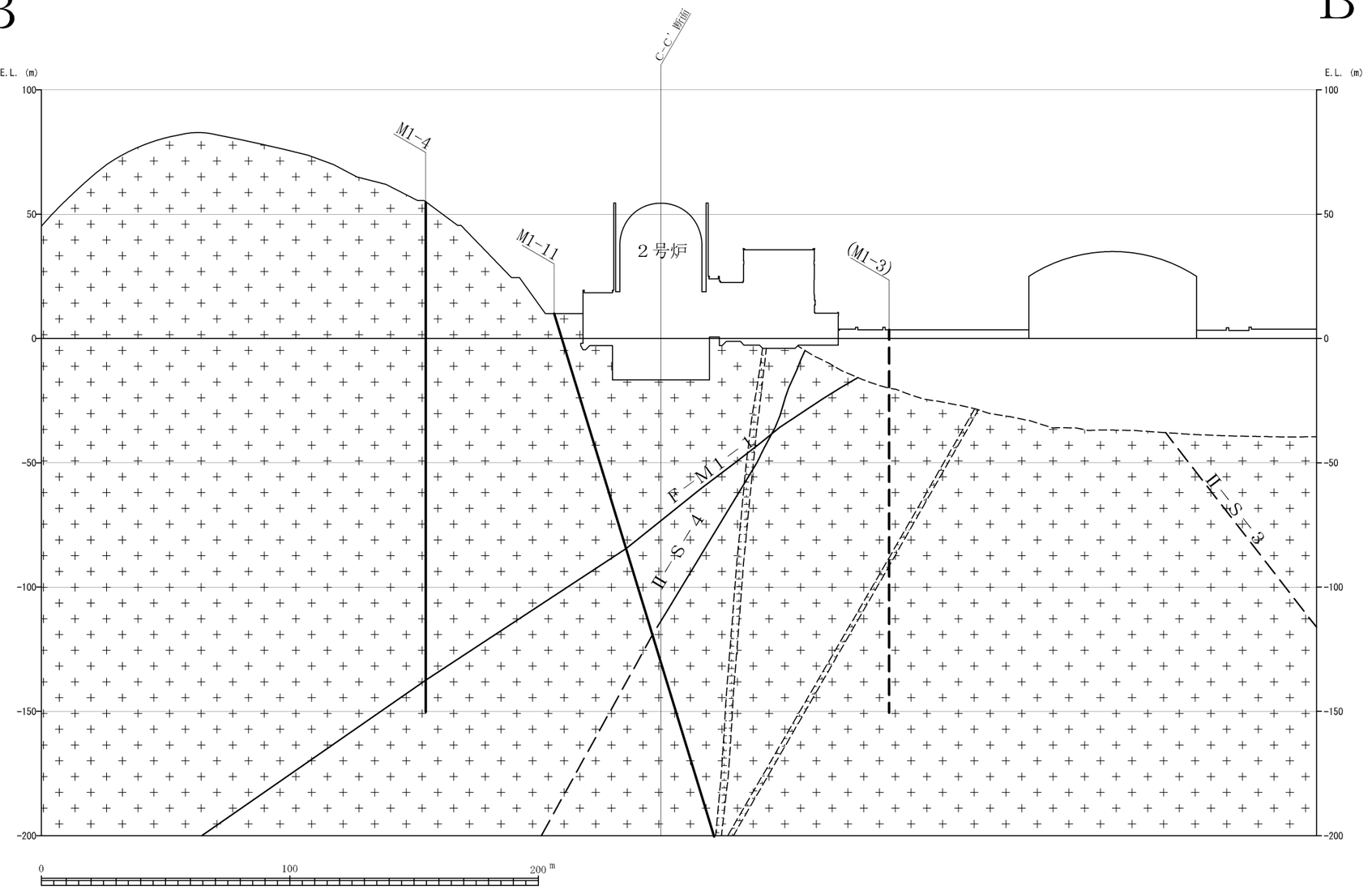
地質区分

- 堆積物･埋め戻し土等
- ドレライト
- 細粒黒雲母花崗岩
- 地質境界線
- 破砕帯（破線は破砕部なし）

M1-10
ボーリング位置

※投影表示しているボーリングは，ボーリング位置を破線で表示し，孔名に（　）を付す。

第1.2.3.4.2図(1)　地質鉛直断面図（A-A‘断面）



凡　例

地質区分

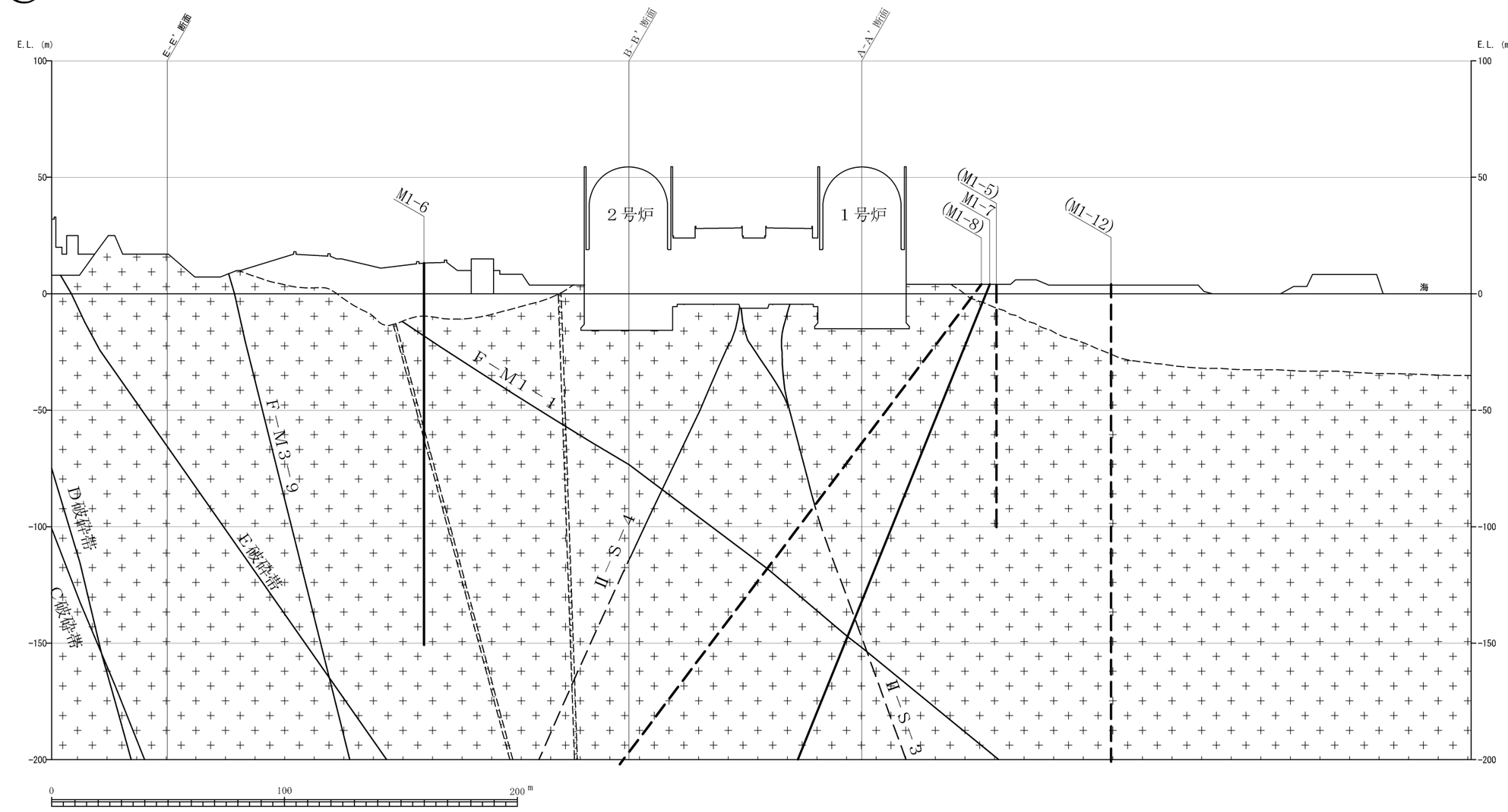
- 堆積物・埋め戻し土等
- ドレライト
- 細粒黒雲母花崗岩
- 地質境界線
- 破砕帯（破線は破砕部なし）

M1-10

ボーリング位置

※投影表示しているボーリングは，ボーリング位置を破線で表示し，孔名に（　）を付す。

第1.2.3.4.2図(2)　地質鉛直断面図（B-B'断面）



凡　例

地質区分

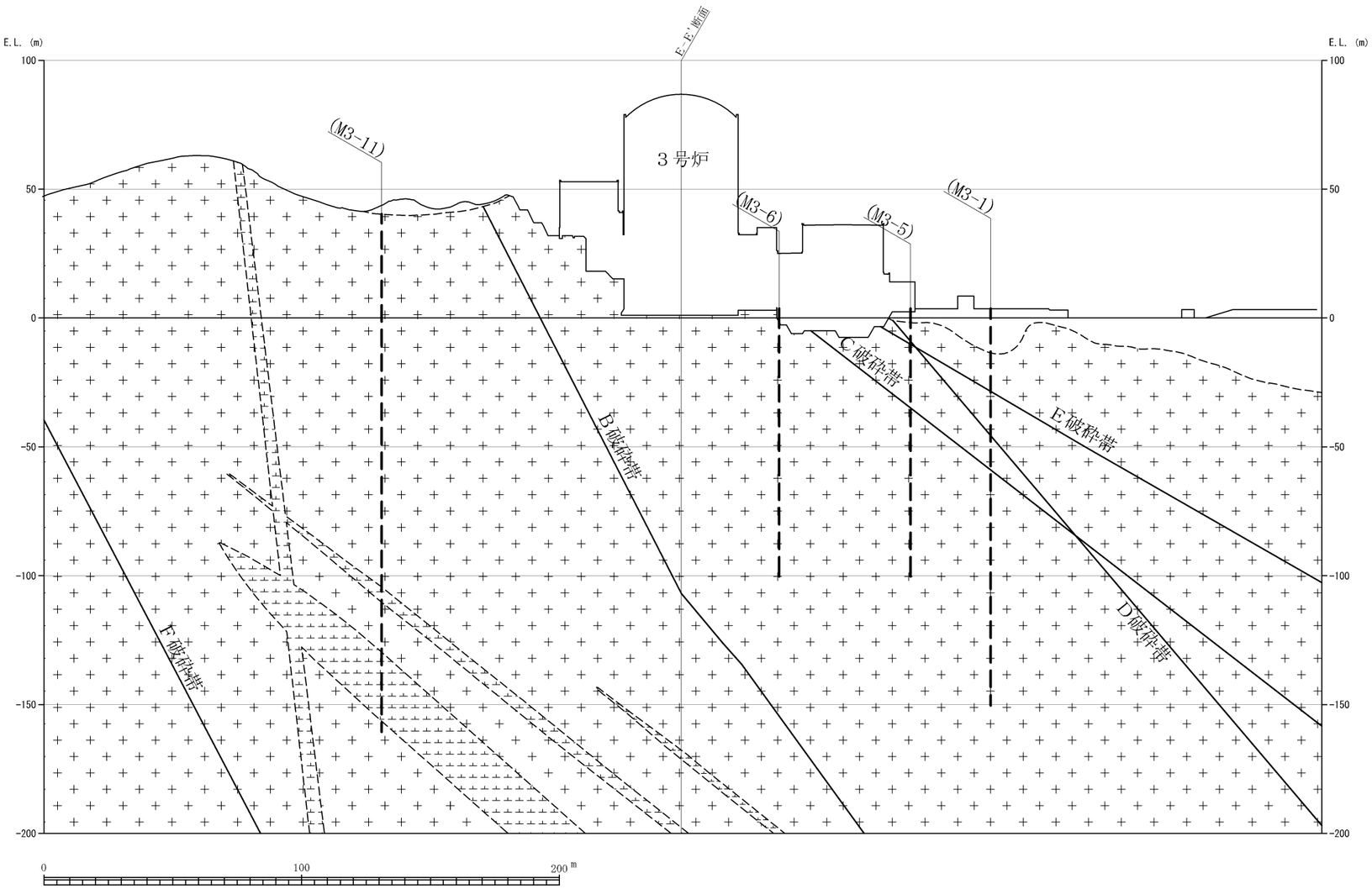
- 堆積物・埋め戻し土等
- ドレライト
- 細粒黒雲母花崗岩
- 地質境界線
- 破砕帯（破線は破砕部なし）

※投影表示しているボーリングは，ボーリング位置を破線で表示し，孔名に（ ）を付す。

第1.2.3.4.2図(3)　地質鉛直断面図（C-C‘断面）

D

D’



凡　例

地質区分

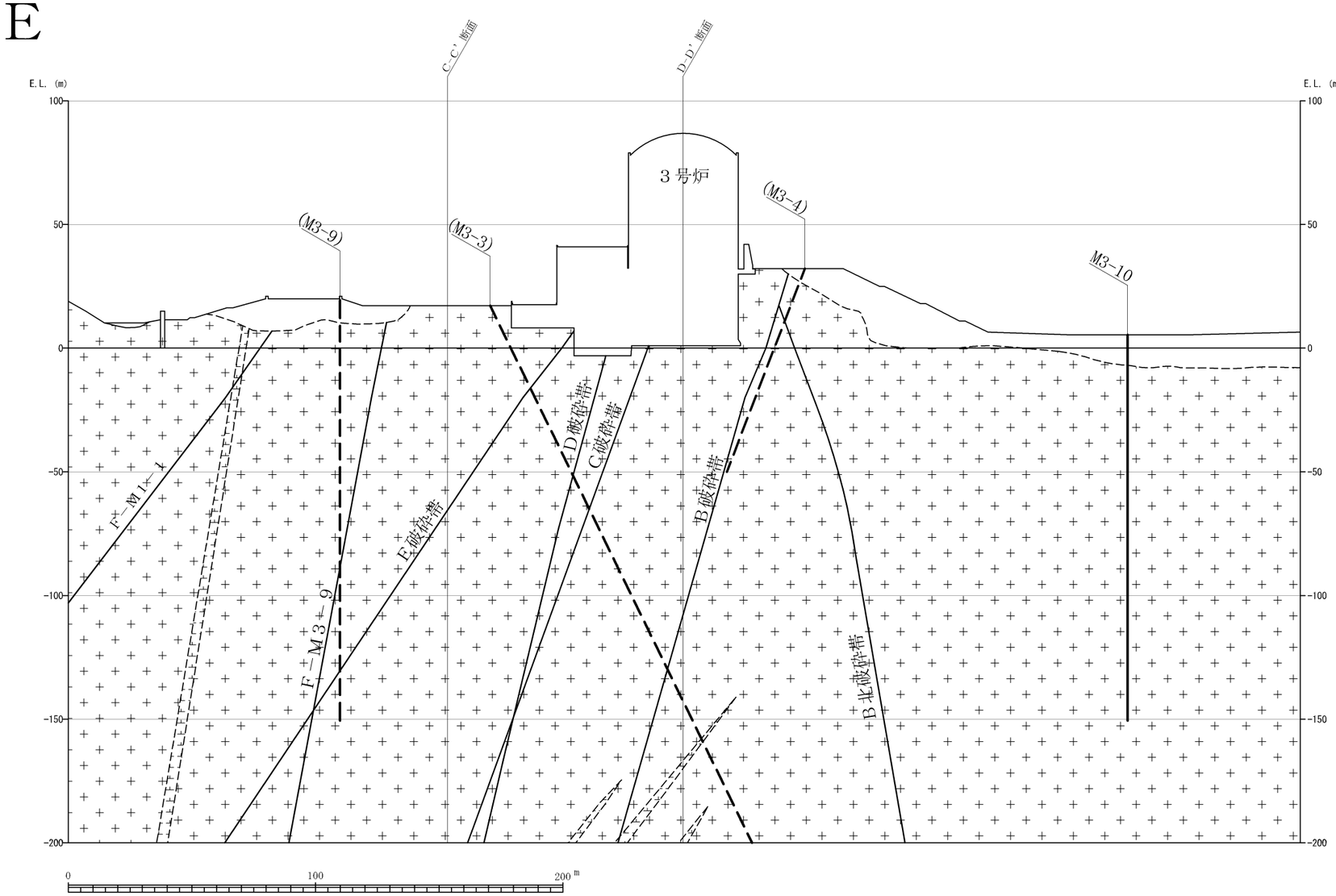
- 堆積物･埋め戻し土等
- ドレライト
- 細粒黒雲母花崗岩
- 地質境界線
- 破砕帯

M1-10

ボーリング位置

※投影表示しているボーリングは，ボーリング位置を破線で表示し，孔名に（ ）を付す。

第1.2.3.4.2図(4)　地質鉛直断面図（D-D‘断面）



凡　例

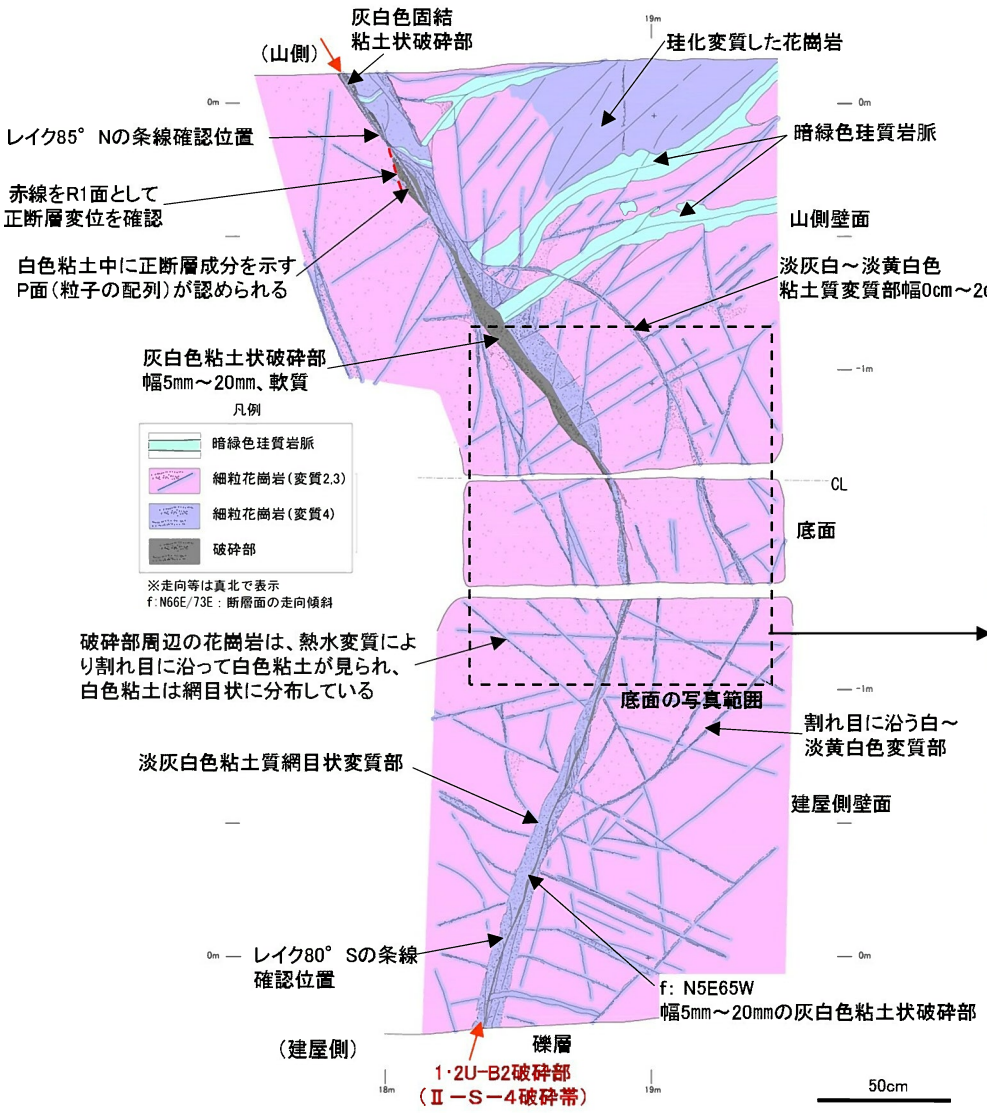
地質区分

- 堆積物・埋め戻し土等
- ドレライト
- 細粒黒雲母花崗岩
- 地質境界線
- 破砕帯

M1−10
ボーリング位置

※投影表示しているボーリングは，ボーリング位置を破線で表示し，孔名に（　）を付す。

第1.2.3.4.2図(5)　地質鉛直断面図（E-E‘断面）



1･2U-B2破砕部詳細スケッチ

各破砕部周辺の変質区分

破砕帯	破砕部	破砕部周辺の変質区分
B破砕帯	3UNB-B1破砕部	変質4もしくは変質3
	3UT-B1破砕部	変質3
C破砕帯	3UK-B2破砕部	変質3
D破砕帯	3UK-B1破砕部	変質4もしくは変質3
E破砕帯	3UNA-B3破砕部	変質4
Ⅱ－S－3破砕帯	No.19、掘進長22.7m付近の破砕部	変質4
Ⅱ－S－4破砕帯	1･2U-B2破砕部	変質4もしくは変質3
F－M1－1破砕帯	3UH-B1破砕部	変質4もしくは変質3
F－M3－9破砕帯	3US-B1破砕部	変質4もしくは変質3



1･2U-B2破砕部底面の写真

・敷地内は全体的に熱水変質作用を被っており（変質2以上）、敷地内破砕帯の近傍では特に強く熱水変質作用を被っている（変質3または変質4）。
・変質3の熱水変質作用を被っている箇所においては、粘土脈が網目状に広く分布している。

・露頭観察で認められた性状から、破砕部およびその近傍ほど強く熱水変質を受けていることが認められる。

第1.2.3.4.4図　破砕部の露頭観察結果